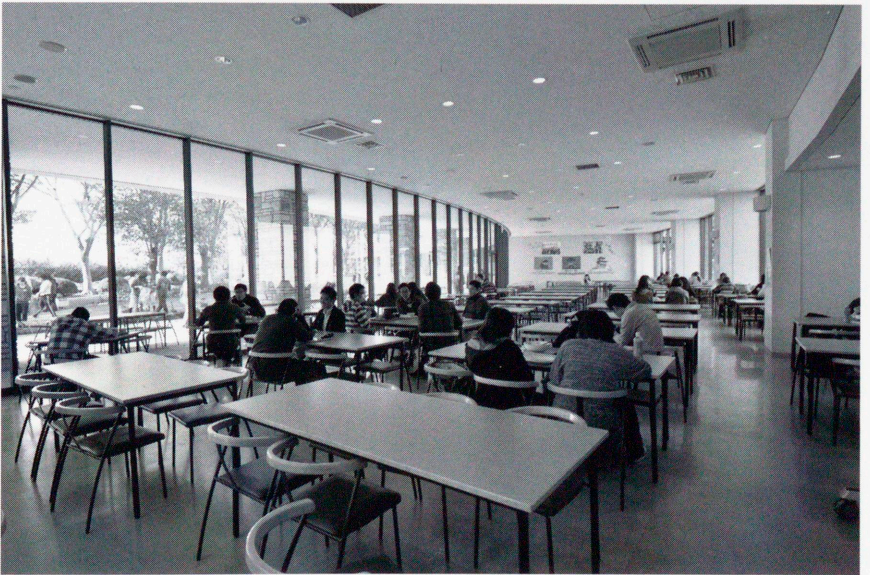
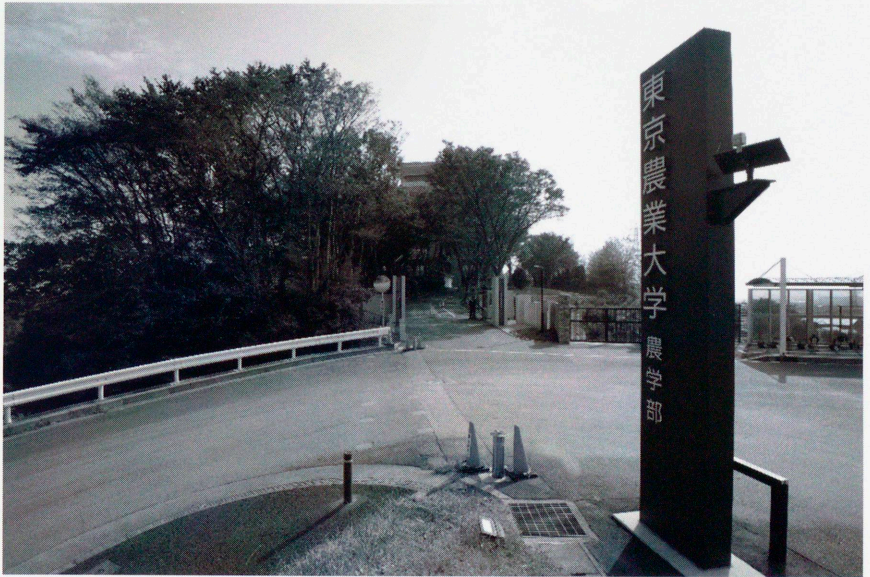


ふじみの



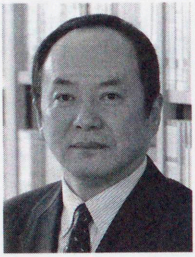
No.53

東京農大畜友会



畜友会の皆さんへ

畜産学科長・畜友会会長 桑山岳人



畜友会の会則は、昭和35年に制定されています。改めて会則を読んでもみると発足当時の会員の心意気を感じることが出来ます。皆さんも本冊子『ふじみの』に掲載されている畜友会の会則（46頁参照）を是非読んでみて下さい。当時は大学からのサポート体制もあまり整っていなかったものと思います。畜産学科は、千葉県茂原市から東京都世田谷区を経て、現在神奈川県厚木市にキャンパスを構えます。厚木キャンパスも開設して20年近くになりますが、初年度はキャンパス内に先輩もいませんでした。また、キャンパス内も現在のように整備されていませんでした。しかし、そんな中自らそれを切り開こうとする有志が多かったように思います。全てが潤沢に整っている時が決して会の活動が活発であるとは限りません。私達は、これからも常に発展途上の精神で頑張っ て行きましょう。

*『ふじみの』は大学HP (<http://www.nodai.ac.jp/zoo/original/fujimino/pdf/fujimino.pdf>)
からもPDF版を配信しています。

平成二十九年三月吉日

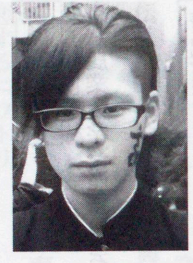
ふじみの発行にあたり



ふじみの発行にあたり
冬は、東京農業大学創立百二十五周年を迎え、時代の節目を迎えると同時に新たなスタートを切りました。その中で学生一人一人の夢、希望、かけがえのない時間を共にした仲間との文章が載せられていきます。

ふじみの発行にあたり

畜友会委員長 鶴ヶ崎世結



冬の厳しい寒さも和らぎ、桜の芽もほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第五十三号を発行することとなりました。
本誌には、畜産学科の先生及び学生の原稿や昨年度の事業報告を記載していただきます。

昨年、東京農業大学創立百二十五周年を迎え、時代の節目を迎えると同時に新たなスタートを切りました。その中で学生一人一人の夢、希望、かけがえのない時間を共にした仲間との文章が載せられていきます。

目次

ふじみの

ふじみの畜産部

ふじみの

目次

畜友会の皆さんへ 畜産学科長・畜友会会長 桑山 岳人 1

ふじみの発刊にあたり 畜友会委員長 鶴ヶ崎世結 3

同窓会だより

「ふじみの」第53号発行によせて 畜産学科同窓会会長 栗原 良雄 6

畜産振興会 東京農業大学畜産振興会 便り 畜産振興会会長 半澤 惠 7

研究室だより 第十七回厚木キャンパス収穫祭・第二二五回体育祭各部門委員長より 23

家畜繁殖学研究室 9
家畜育種学研究室 12
家畜生理学研究室 14
家畜飼養学研究室 17
畜産物利用学研究室 19
家畜衛生学研究室 20
畜産マネジメント研究室 23

ふじみの寄稿原稿(教員)

学生は面白い 村上 寛史 25

集う学友

逃げるは恥だが役に立つ 4年 堀切真太郎 28
つらいけど最高に楽しい 3年 大里 幸乃 29
大学二年間を振り返って 2年 荻谷 哲也 30
大学生活 1年 本間みのり 31

畜友会だより

平成二十八年畜友会活動報告 32
平成二十七年畜友会決算報告 33
平成二十七年畜友会特別会計収支決算報告 34
平成二十八年畜友会予算 35
平成二十八年収穫祭特別会計予算 36
平成二十八年度畜友会役員 37
第十七回厚木キャンパス収穫祭 38
第二二五回体育祭事業報告及び結果報告 46
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則

んだば!

統一本部委員長 3年 鶴ヶ崎世結 52

特別企画とは 特別企画委員長 3年 山口 智也 53

山あり谷あり 宣伝隊長 3年 畠 明宏 54

伝統と新しい作りの神輿 神輿隊長 3年 湯山 真仁 55

第125回体育祭 体育祭委員長 3年 鈴木 飛鳥 56

恋するニワトリ 樽装飾委員長 3年 矢板 都 57

笑顔な装飾〜幸せな時間〜 装飾委員長 3年 松本 奈々 58

家畜苑 家畜苑苑長 3年 大窪 誠聖 59

編集後記 編集委員長 3年 外内 万夏 60

同窓会だより



「ふじみの」第五十三号発行によせて

東京農薬大学農学部畜産学科同窓会

会長 栗原 良雄

「ふじみの」第五十三号発行おめでとうございます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

これから皆さんは畜産学科同窓会のメンバーになります。大いに歓迎いたします。

これからは畜産学科で学んできたことを実践する機会が来たわけです。これからは一人ひとりがそれぞれの環境の中で与えられた仕事に真摯に取組み信頼を得るように頑張ってください。

あなた方は次の世代を担っていく大事な人材です。健康に気を付けて頑張ってください。期待しています。

畜産振興会



東京農薬大学畜産振興会 便り

東京農薬大学畜産振興会

会長 半澤

恵

東京農薬大学畜産振興会が発足して、早二十六年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。そこで改めて本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は東京農薬大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するため、平成三年三月二十三日に学校法人東京農薬大学の認可を得て設立されました。会の運営には学内外の卒業生ならびに学科教員を中心に本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ること

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

皆さんは夢を持って入学されてきたのではないかと思います。これから勉学はもちろんのことあらゆることに挑戦して自分の可能性を見出してください。いずれにしても無為に過ごすことはしないでください。

学生時代に得た友達は一生の宝です。良き友をたくさん作ってください。

最後になりましたが、これまで畜友会の役員をされた方、大変ご苦労様でした。収穫祭をはじめ諸活動でいろいろな苦労があったと思います。この中で得るものも多かったと思います。これをこれからの生活に生かして行ってください。

現在役員をされている方、これから何かと苦労が多いと思います。何事も経験です。畜産学科学生のリーダーとして頑張ってください。

同窓会もこれからも皆さんの応援ができるよう努力をさせていただきます。

以上

平成二十八年十二月

になっています。

具体的な事業内容として、平成二十九年一月現在、奨学生への採用（毎年二、四年次生各学年二名、計六名、延べ九十一名）、優秀卒業論文賞の授与（毎年一名、計二十六名）に加え、過去には姉妹校短期留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給（八名）、ならびに関連学会での学術論文掲載、学術集会での発表の奨学（二百七十五名）を実施してきました。また、経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行っています。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十六期の学科学生ならびに第十四期の博士前期課程大学院生、第十一期の博士課程後期大学院生が卒業します。平成二十七年十月には新学生会館が開館し、また、三年前よりコンビニエンスストアも導入されるなど、キャンパスの整備も徐々にすすんでおります。しかし移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにおり、厚木キャンパスは学生のみという状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士畜産農場に繋養されました。リヤマは毎年収穫祭の折に畜産学科統一本部で実施する家畜苑の時に人気者になっています。黒毛和牛は優秀な子孫も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用されています。

本会設立の契機は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君(当時畜産学科二年在学中)のご両親から寄付を賜った原資を基金として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため、

- 一 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金(設立時)
- 二 賛助会員会費(受領実績…延べ八百六十四名)
- 三 一般寄付金(受領実績…延べ百十一名)

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたくお願いいたします。特に本会から表彰を受けた方々は本会の活動を心に留めおいて下さい。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を有効に活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念し、振興会便りいたします。

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は桑山岳人教授、岩田尚孝教授、白砂孔明助教のご指導のもと、大学院生十四名、四年生三十七人、三年生三十名で構成され、学生同士で協力し合いながら日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では動物の生殖や発生のメカニズムの解明に取り組んでいます。具体的には、生殖細胞、胚、それに由来する動物の産子の正常性におよぼすストレス、加齢そして疾病の影響について、遺伝子やタンパクの発現、内分泌そして動物の行動などを対象に研究しています。また発生工学および生殖補助技術を応用して、絶滅危惧種などを含む動物の遺伝資源の保存や増殖に役立てる技術の開発をめざしています。

三年生は生殖学の基礎的な知識、実験方法を身に付けると共に大学院生や四年生の研究活動を補助しながら興味のある研究分野について理解を深め、研究テーマを決定します。

当研究室では国内や海外で行われる学会にも積極的に参加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。

研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会(四月)、論文発表会(年数回)、収穫祭の文化芸術展での研究発表、スポーツ大会(年二回)、研修旅行、卒業生送別会等があります。

氏名 卒業論文題目 指導教員

荒井 俊行 ニワトリの甲状腺ホルモン分泌に関する研究 桑山 岩田

植田 万栄 顆粒層細胞の数で分画した卵胞液の添加がブタ卵子の能力に及ぼす影響 岩田 白砂

植田 愛美 成熟培地への飽和脂肪酸の添加がブタ卵子中のエネルギー代謝に及ぼす影響 桑山 岩田

上野友三恵 肝臓の状態がインスリンに対するウシ初期卵胞卵由来卵子の反応性に及ぼす影響 岩田 白砂

内山 愛理 胎盤細胞株 SW71 において HMGBI が炎症反応に及ぼす影響 桑山 白砂

大澤 将弥 国産カプトムシの寿命に対するレスベラトロール投与効果 岩田 白砂

押木 茜 三次元細胞培養系を用いたヒト胎盤細胞株機能の検討 桑山 白砂

尾関 綾依 妊娠高血圧腎症患者の血清中 Cell-free DNA はヒト絨毛細胞株において炎症反応を引き起こす 桑山 白砂

金子 泰昭 ウズラの発育中にレスベラトロールを与える効果について…産卵に関する検討 白 桑山

川瀬 樹 パルミチン酸で誘導した胎盤細胞障害におけるレスベラトロールの効果の検討 桑山 白砂

神作 和樹 ウシ顆粒層細胞のミトコンドリア数とテロメア長の関係とこれに及ぼす加齢の影響 岩田 白砂

金 愛理 ウシ卵子におけるミトコンドリア数とテロメア長の関係とこれに及ぼす加齢の影響 岩田 白砂

河野 理沙 ニワトリとウズラの属間交雑種の妊性に関する研究 岩田 桑山

後藤 千尋 胎盤細胞において低酸素状態がオートファジーと老化に及ぼす影響 桑山 白砂

酒井 拓哉 動物園動物の生態調査 白 岩田 白砂

柴原 秀典 培地へのパルミチン酸添加がブタ卵子顆粒層細胞複合体へ及ぼす影響 桑山 岩田

柴村 浩真 ポリアクリルアミドゲルがウシ初期胞状卵由来卵子の体外発育に与える影響 岩田 白砂

濱田 慶祐 インスリン条件の異なる環境で発育したブタ体外発育卵子のエネルギー代謝に関する研究 桑山

堀 このみ ウシの加齢が黄体機能に及ぼす影響…老化因子に関する検討 桑山 白砂

堀切真太郎 体外発育培地への酪酸ナトリウムの添加がウシ初期胚の発生能力に及ぼす影響 岩田 白砂

松下麻友美 ウシの加齢が黄体機能に及ぼす影響…炎症関連因子に関する検討 岩田 白砂

宮崎 麻衣 ポリアクリルアミドゲル上での体外成熟がブタ卵子の質に及ぼす影響 岩田 白砂

山口 悠史 ウズラの発育中にレスベラトロールを与える効果について…免疫制御に関する検討 桑山 白砂

山田 優希 ポリアクリルアミドゲルがブタ未熟卵子の体外発育に及ぼす影響 岩田 桑山

金田 寿子 甲状腺ホルモン異常と不妊症との関係に関する基礎研究の調査 白 桑山

地曳 奈緒 雄ニホンウズラの拘束ストレスに対するコルチコステロンの分泌反応の個体差について 岩田 桑山

申 美南 ブタ卵子のミトコンドリア呼吸鎖複合体Ⅲの阻害がミトコンドリアの品質管理機構に及ぼす影響 岩田 桑山

須田 千晶 母鶏のトリヨードチロニン濃度は雛殺し行動に関係しているのか 岩田 桑山

谷川 奈央 ヒト胎盤細胞におけるIFNTの応答性の検討 桑山 白砂

刀祿健太郎 ウシ初期胞状卵由来卵子の体外発育に及ぼす最適インスリン濃度の検討 岩田 桑山

内藤あおば ウシの加齢が黄体機能に及ぼす影響…プロジェステロン合成機能に関する検討 桑山 白砂

奈須野沙耶 ブタ卵子のミトコンドリア呼吸鎖複合体Ⅴの阻害がミトコンドリアの品質管理機構に及ぼす影響 桑山 岩田

納見 麻代 ポリアクリルアミドゲル状で発育したブタ卵子の代謝能力に関する研究 桑山 岩田

小嶋 美華 BSAを用いたウシ初期胞状卵由来卵子の体外発育系の構築 白 岩田 白砂

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、古川力教授をはじめ、野村こう教授、高橋幸水助教の指導の下、大学院生3名、研究生1名、4年生32名、3年生30名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜(ウシ・スイギュウ・ヒツジ・ブタ・ヤギ・イノシシ)を供試動物として、マイクロサテライトマーカーやミトコンドリアDNA 遺伝子情報による連鎖地図作製、系統遺伝学的研究や、統計遺伝学に関する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生により学会発表などが精力的に行われています。

氏名 卒業論文題目 指導員

飯田 智仁 ヤギの繁殖性遺伝子の多型解析 野村

井出健太郎 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

今井 綾乃 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村

浦宗 悠華 日本におけるマンクスロフタン種のDNA多型情報に基づく遺伝的多様性 古川

遠藤 和貴 日本におけるマンクスロフタン種のDNA多型情報に基づく遺伝的多様性 古川

岡田 幸太 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋

狩野 里紗 ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究、特に核遺伝子情報に基づく解析、 古川

川崎 悠介 マイクロサテライトDNAマーカーを用いたヤギ連鎖地図作製に関する研究 野村

北野 有紀 今帰仁アグーにおける繁殖能力と遺伝的多様性に関する研究 古川

木村亜由美 ニホンイノシシにおける遺伝的多型解析—特にMX1, MX2, C3およびLEP各遺伝子領域の解析— 高橋

久米 啓太 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 高橋

込山真貴子 神津牧場におけるジャージー牛の泌乳持続性と繁殖性 古川

佐藤 達也 マイクロサテライトDNAマーカーを用いたヤギ連鎖地図作製に関する研究 野村

佐藤 建 ヤギの繁殖性遺伝子の多型解析 野村

佐藤 翼 日本におけるマンクスロフタン種のDNA多型情報に基づく遺伝的多様性 古川

鈴木 智也 Y染色体遺伝子とmtDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

大源 晴香 ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究、特に核遺伝子情報に基づく解析、 古川

高木 駿 マイクロサテライトDNAマーカーを用いたヤギ連鎖地図作製に関する研究 野村

田河 歩惟 今帰仁アグーにおける繁殖能力と遺伝的多様性に関する研究 古川

田口 智未 マイクロサテライトDNAマーカーを用いたヤギ連鎖地図作製に関する研究 野村

田代 竣 ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究、特に核遺伝子情報に基づく解析、 古川

外村 千晶 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋

富田 千絵 Y染色体遺伝子とmtDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

友村 裕貴 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究 高橋

外谷 賢吾 神津牧場におけるジャージー牛の泌乳持続性と繁殖性 古川

家畜生理学研究室

永谷和花穂 ヤギの繁殖性遺伝子の多型解析 野村

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、平野貴准教授、原ひろみ助教のご指導のもと、大学院生3名、学部4年次生28名、3年次生27名で構成されています。

中村 功 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 古川

本研究室では家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしています。今年はその研究対象動物はウシ、ウマ、ヒツジ、ニワトリ、ニホンウズラです。

羽山 絵里 今帰仁アグーにおける繁殖能力と遺伝的多様性に関する研究 古川

学年毎の活動として、3年次生は生理学に関する基礎的な知識、技術を身につけるために講義、ゼミ、実験実習、

深澤 俊輔 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 古川

二泊三日の富士農場実習を行い、日常的な実験動物の管理、院生、学部4年生の卒業論文の補助とともに実験別の知識を得るために夏休み直前から課題別実験を行います。4年次生はこれまで得た知識、技術をもって各々が興味を持った研究を引き継ぎ、あるいは新規のテーマを先生との議論により決定し、卒業論文に取組んでいます。院生は各々の学位論文のテーマで日夜研究に取り組んでいます。年間の主な行事は新入室員歓迎会、卒業生との交流会、収穫祭文展・模擬店、研修旅行、課題別実験成果発表会、卒業論文発表会、卒業生歓送会、年二回の納会、年一回の畜舎大掃除、週一回のゼミナールがあります。

藤本 尚輝 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

水沼 峻介 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 古川

渡部 汐南 ヤギの繁殖性遺伝子の多型解析 古川

藪崎 友基 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 古川

氏名 卒業論文題目 指導教員

新井 志保 早産を伴う虚弱子牛症候群候補原因遺伝子における多型の解析 平野

飯島 孝介 ニホンウズラTLR4遺伝子の多型解析 原

五十嵐一輝 ニホンウズラCHSPA2、SUTR対立遺伝子型間の熱ショック応答性差異の明確化 原

伊藤 遼哉 ワクチン卵を生産する種鶏における抗ウイルス遺伝子Mx、BLB2の多型解析 原

岩井 春樹 ウマ赤血球系幹細胞の二段階液体培養法による増殖分化に関する研究 原

宇都宮沙紀 ウマ赤血球系幹細胞の二段階液体培養法による増殖分化に関する研究 原

岡前 奈月 競技馬の運動内容および状態別における赤血球膜浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動 半澤

尾崎 真紀 同条件で肥育した同一種雄牛産子の母方ハプロタイプと枝肉形質について 平野

柏木 佑介 スクレイピーの多型解析 平野

金子 武矢 ウマ赤血球系幹細胞の二段階液体培養法による増殖分化に関する研究 原

小山 千裕 ホルスタイン種子牛死産の候補原因遺伝子の探索 平野

近藤 良兼 早産を伴う虚弱子牛症候群の候補原因遺伝子HOXA1に相互作用するTRAPPC6Aの変異探索 平野

坂巻 麗奈 ニホンウズラHSPA2のORFの多型解析 原

菅原 謙 植物性凝集素を用いたニホンウズラ赤血球凝集原に関する研究 原

高津 美貴 ニホンウズラPおよびY系のTLR2 type2遺伝子の多型解析 原

竹内 里奈 早産を伴う虚弱子牛症候群と関連する18番染色体領域の変異探索 平野

田中 桜 ニホンウズラKおよびP系の二系統間の腸内細菌叢の比較解析 原

| | | | |
|-------|--|---|----|
| 猪爪丈一郎 | ニホンウズラ Mx 遺伝子の臓器別 mRNA 発現量の確認 | 原 | 半澤 |
| 種市 信行 | ホルスタインの IGF1R 遺伝子の多型と乳中体細胞数と産乳形質 | 平 | 野澤 |
| 難波悠太郎 | 29 番染色体上に特定された黒毛和牛子牛死産の候補原因遺伝子探索 | 平 | 野澤 |
| 野間隆太郎 | 競技馬の運動内容および状態別における赤血球膜浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動 | 半 | 澤 |
| 野村 友子 | ワクチン卵を生産する種鶏における抗ウイルス遺伝子 Mx の多型探索 | 半 | 澤 |
| 福岡 溪 | 黒毛和種 SCD 遺伝子多型と枝肉形質の関連 | 平 | 野澤 |
| 安岡 希望 | ニホンウズラ CDI 遺伝子領域の組み換え位置の検索 | 平 | 野澤 |
| 渡邊 紘平 | ウシ 29 番染色体上第 2 領域にマッピングされた黒毛和種子牛死産の候補原因遺伝子探索 | 平 | 野澤 |
| 渡邊 草太 | 寒天培地培養法と 16S rRNA 遺伝子によるニホンウズラ腸内細菌の同定 | 原 | 半澤 |

| | | | |
|-------|-------------------------|---|----|
| 渡辺 優作 | 黒毛和種 RBP4 遺伝子上流の多型の探索 | 平 | 野澤 |
| 高岡 俊介 | 黒毛和種 RBP4 遺伝子多型と枝肉形質の関連 | 平 | 野澤 |

家畜飼養学研究室

飼料と管理、栄養の 3 本柱を中心に環境への配慮も含め安全で効率的な畜産物の生産をめざし追求しているのが家畜飼養学研究室です。本研究室では、バイパスアミノ酸が繁殖和牛にもたらす効果についての実験や、野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる肥育豚の飼育、他にもダチョウとホロホロ鶏の血中ガス濃度測定、肉用鶏用飼料のタンパク量を変更し肥育速度の変化の研究など幅広く研究しています。

各研究は池田周平教授、黒澤亮助教の指導のもと日々研究を行っており、卒業論文としてはもちろん、成果は学術研究会の場で毎年発表されています。研究活動は、室員交流や団結のための歓迎会や納会など様々な行事、家畜生産現場へのインターンシップ、飼料成分分析実験、収穫祭への参加（文化学術展・飼養研の花ここに咲く、模擬店・おでん）などがあり、研究室生活は充実し室員は楽しく過ごしています。先生方は実験や実習の場でも、事業においても優しく丁寧に指導を頂けるので、勉学や飼養管理技術について深く学ぶ事ができます。

| 氏名 | 卒業論文題目 | 指導教員 |
|----|--------|------|
|----|--------|------|

| | | |
|-------|--|-------|
| 入江 駿敬 | 大豆粕入り代用乳が黒毛和牛仔牛の成長および血液成分 (T-Cho, BUN, T-Bil, GOT, GPT) に及ぼす影響 | 池野 黒澤 |
| 小川 直輝 | 野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる豚肥育の検証 | 池野 黒澤 |
| 尾崎 郁馬 | 飼料中の CP・ME バランスが鶏の成長および肉質に及ぼす影響 | 池田 黒澤 |
| 兼子 渚 | 野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる豚肥育の検証 | 池田 黒澤 |
| 興梠 史也 | バイパスアミノ酸製剤投与が繁殖和牛にもたらす効果 | 池野 黒澤 |
| 小林 雪乃 | バイパスアミノ酸製剤投与が繁殖和牛にもたらす効果 | 池野 黒澤 |
| 坂下 真由 | プロイラーにおける乳酸菌製剤による飼育評価 | 池田 黒澤 |
| 敷地 生光 | 飼料中の CP・ME バランスが鶏の成長および肉質に及ぼす影響 | 池田 黒澤 |

| | | |
|-------|--|----|
| 鈴木 絢 | 野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる豚肥育の検証 | 黒田 |
| 鈴木 祥子 | モルモットにアスコルビン酸酸化酵素を含む食べ物を給与した時の血漿、肝臓、腎臓中ビタミンC含量 | 黒田 |
| 鈴木 友悠 | ウズラに茶葉を給与した場合の肉質変化及び排泄物の臭気への影響 | 黒田 |
| 田中 敬康 | 動物性タンパク質がウズラの産卵成績に及ぼす影響 | 黒田 |
| 鶴丸 友郎 | 動物性タンパク質がウズラの産卵成績に及ぼす影響 | 黒田 |
| 長谷川仁哉 | ウズラ胚のカルシウム吸収について | 黒田 |
| 服部 圭太 | 孵卵環境が初生ウズラの残存卵黄量に及ぼす影響 | 黒田 |
| 平田 理乃 | 野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる豚肥育の検証 | 黒田 |
| 藤岡 凌太 | アフリカ原産家禽の血液ガス分圧に関する調査 | 黒田 |

畜産物利用学研究室

本研究室は、室長の多田耕太郎教授、入澤友啓助教のご指導のもと、大学院生1名、4年次生35名、3年次生31名、総勢67名で構成されており、先進的な加工・分析技術を用い、新しい畜産食品の研究開発に取り組んでいます。具体的には、乳・肉・卵中に含まれる各種成分の化学・物理的特性ならびに栄養・生理的機能特性を品種・個体・分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術である超高压処理を用いた新しい畜産食品の研究開発、未利用状態にある畜産副産物（内臓、骨、皮等）を食料資源として活用する研究を行っています。研究成果は、食品の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善及び新しい加工食品の開発に利用されています。

研究活動では、3年次にハム・ベーコンをはじめとする各種畜産食品の製造実習、また食品の分析や生菌検査等から実験手順や操作方法を学び、4年次の卒業論文実験に活かして、より正確性の高い研究を重ねていきます。年間を通しては、新入生歓迎会、総会、納会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会等を行い、お互いの絆を深めつつ、研究室の更なる発展を目指して活動しています。

| | | |
|-------|---|----|
| 堀 朱夏 | 飼育下で提供される環境の広さがヒキガエルに与える影響 | 黒田 |
| 牧野 友紀 | ウズラに茶葉を給与した場合の肉質変化及び排泄物の臭気への影響 | 黒田 |
| 宮井 彩乃 | 矮鶏の体重と血液生化学値の関係 | 黒田 |
| 森 龍一 | 大豆粕入り代用乳が黒毛和牛仔牛の成長および血液成分 (T-Chol, BUN, T-Bil, GOT, GPT) に及ぼす影響 | 黒田 |
| 代々木 穂 | イカスミがラットの窒素代謝に及ぼす影響 | 黒田 |
| 大島ひかる | ダチョウの安定育成にむけた試み | 黒田 |
| 長谷川千悠 | 野菜廃棄部分を用いたエコフィードによる豚肥育の検証 | 黒田 |

氏名 卒業論文題目 指導教員

| | | |
|-------|---------------------------------|----|
| 大坂 友歌 | 超高压処理と水晒しを併用した豚心臓ソーセージの製造に関する研究 | 黒田 |
| 鈴木友実子 | ソーセージの製造に関する研究 | 黒田 |
| 長部なつ実 | 高压処理を用いたソーセージ状食品に関する研究 | 黒田 |
| 小澤早恵香 | 高压処理を用いたソーセージ状食品に関する研究 | 黒田 |
| 笹沼 周矢 | 高压処理による動物性タンパク質のゲル形成に関する研究 | 黒田 |
| 篠田沙緒里 | 形成に関する研究 | 黒田 |
| 中川ちはる | GABA生成乳酸菌を用いた高粘度多山 | 黒田 |
| 古山 若菜 | ヨーグルトの開発 | 黒田 |
| 堺 真由子 | GABA含有発酵バター製造に適した乳酸菌の探索に関する研究 | 黒田 |
| 星野 裕貴 | た乳酸菌の探索に関する研究 | 黒田 |
| 八角風羽香 | GABA生成乳酸菌を用いた発酵内臓肉の製造に関する研究 | 黒田 |
| 松永 光弘 | 肉の製造に関する研究 | 黒田 |
| 佐藤 恵美 | 塩漬条件の差異が粗挽きソーセージの品質に与える影響に関する研究 | 黒田 |
| 峯島 優介 | 質に与える影響に関する研究 | 黒田 |
| 大吉 史夏 | 原料乳の差異がカマンベールチーズの品質に与える影響 | 黒田 |
| 小野寺 綾 | 質に与える影響 | 黒田 |

磯野 愛 ペーパーの新規利用法に関する研究 入 多田

上村 沙羅 入 澤

武藤 守 雪室貯蔵による畜肉のドライエイジングに関する研究 入 多田

矢田部麻美 入 澤

土田味予子 入 澤

倉石 謙 糠床を用いた新規畜肉加工法に関する研究 入 多田

澤崎 紘也 入 澤

長崎 萌 発酵卵製品の開発に関する研究 入 多田

西野みちる 入 澤

鈴木聡一郎 液体麹を用いた鶏肉の発酵 入 多田

滝口 裕太 入 澤

澤崎 友治 液体麹を用いた豚肉の発酵 入 多田

中島 晨 入 澤

古知かずみ 液体麹を用いた牛肉の発酵 入 多田

鈴木 詩織 入 澤

小野 美晴 液体麹を用いた豚皮の発酵 入 多田

下田 雅裕 入 澤

大塚 はな 乳酸菌を添加した発酵ソーセージの製造に関する研究 入 多田

入 澤

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、村上寛史教授、鳥居恭司准教授、小林朋子助教のご指導の下、四年生三十四人、三年生三十一名で構成されています。本研究室では、各自で希望する家畜別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ、動物たちの健康を維持するとともに飼育管理を通して各動物たちへの接し方、育て方を日々学んでいます。

今年度の調査研究としては、農場における食中毒細菌およびその毒素の問題、農場における牛白血病の感染要因、カビの汚染や発育、透明標本の作製による骨形成過程、プロイラー浅胸筋症の問題などに取り組んでいます。また収穫祭の文展では牛乳の衛生的実験を行いました。

主な行事として、月二回の定例会、新入生歓迎会、収穫祭、研修旅行、年末には餅つき、慰霊祭があります。これらの行事を通して各員は団結を深め、個々が目的を持って有意義な研究室活動を行っています。

なお、平成二十八年年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名 卒業論文題目 指導教員

東 里江 鶏壊死性腸炎の雛モデル作出 村 鳥居

天野 佳紀 神奈川県B市におけるBLV感染要因の究明 村 鳥居

石井 理佳 破傷風毒素に対するポリクローナル抗体の作製 村 鳥居

石神 望海 プロイラー胸筋の産肉性の経時的推移と胸筋変性との関係性 村 鳥居

石川 貴広 ウェルシュ菌β毒素による壊死性腸炎のマウスを用いた実験モデル作製 村 鳥居

石山香穂里 BLVレセプター(CAT-1)発現細胞の作製 村 鳥居

岩本 小冬 プロイラーのロコモーションと胸筋変性との関係 村 鳥居

上野 花奈 全国版鶏挽肉中のサルモネラ汚染調査 村 鳥居

江田 匠 孵化までの鶏透明骨格標本の作製 村 鳥居

尾形 優 豚扁桃からのTonshiphillus soisの分離 村 小林

岡庭 大斗 カビの発育と酸素との関係 高 村 鳥

片岡 由依 鶏肉由来サルモネラの薬剤耐性 村 鳥居

加藤 昌也 牛の歯垢におけるActinomyces denticolensの分離 村 小林

香取 実沙 神奈川県A市及びB市におけるBLV母子感染の蔓延状況の評価 村 小林

菊池 柚衣 BLV感染和牛のハプロタイプ解析 村 小林

小鹿 健 食品の安全性に係わる家庭の衛生意識調査 村 鳥居

近藤 勇貴 卵白アレルギーのマウスモデル作製 村 鳥居

今野 順介 牛白血病ウイルスのエンプロープ蛋白質の機能評価実験系の確立 村 小林

| | | | | | |
|-------|--|-------|-------|---|-------|
| 菅野 裕也 | S. Infantis と S. Typhimurium 分離法の検討 | 村上 鳥居 | 中里 圭汰 | 全国版 Salmonella Agona 分離株の XbaI を用いた PFGE 解析 | 村上 鳥居 |
| 関根 優希 | アブによる牛白血病ウイルス伝播を定量的に評価可能な実験系の構築 | 村上 小林 | 中里 竜也 | 神奈川県 B 市における牛白血病浸潤調査 | 村上 小林 |
| 左右田凌輔 | 全国版 Salmonella Agona の BlnI を用いた PFGE 解析 | 村上 鳥居 | 西角 光平 | ウイルス遺伝子配列解析からみた BLV 浸潤過程の推定 | 村上 小林 |
| 曾根進太郎 | 胸筋融解時に血中に漏出するミオグロブリンとクレアチンキナーゼの測定 | 村上 小林 | 野口 明子 | 牛扁桃における Actinomyces denticolens の病理学的検索 | 村上 小林 |
| 田口 慶祐 | 実験的 Campylobacter jejuni 投与による鶏盲腸管の応答性 | 村上 鳥居 | 山口 葉 | 小麦アレルギーモデルマウスの作製 | 村上 鳥居 |
| 田沼 栄暉 | Aureobasidium pullulans の生物学的特徴 | 村上 高鳥 | 山本 将也 | 光照射によるカビの発育影響に関する研究 | 村上 高鳥 |
| 都丸 尋也 | 山梨県食鳥処理場搬入ブロイラーの S. Agona 分離状況調査 | 村上 鳥居 | 淀澤 夏菜 | サルモネラの細胞侵入性 | 村上 鳥居 |
| 外山 雅道 | 破傷風毒素に対するモノクローナル抗体の作製 | 村上 小林 | | | |
| 鳥居 優希 | ブロイラー胸筋における病理組織学的検査 | 村上 小林 | | | |

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室は谷口信和教授と信岡誠治教授の指導のもと、平成二十八年度は四年生二十二名、三年生二十一名、計四十三名の態勢で研究室活動を行っています。畜産の経営・経済や流通問題を軸として、生産・流通・販売・消費などの一連の過程と関連付けながらこれらの問題に対する解決策を見出すべく活動しています。また、畜産農家の後継者も多いことから、後継者の養成にも取り組んでいます。

恒例の研修旅行は、九月下旬に千葉県富津市の「マザー牧場」を訪ね観光牧場の現地研修を行い、翌日は千葉県南房総市の「酪農のさと」を訪れ、日本で最古の酪農牧場を見学しました。

卒論研究では、東京農大伊勢原農場棚沢圃場において二十アールの水田で飼料用米の栽培試験を行っています。本年からは飼料用米の新品種である「オオナリ」と「関東飼 271 号」を栽培し両者とも単収 1t 弱の好成績でした。また、東京農大の東日本支援プロジェクト研究に参画し福島県相馬市玉野地区の三戸の酪農家の牧草地で放射性セシウム除染対策に取り組み、酪農家の復興を側面から支援しています。さらに、飼料用米の新たな利用法として粳米、玄米、精米を超微粉細し、米ゲルを製造しパンやクッキーなどへの利用や新たな活用法として石鹸の開発にも取り組んでいます。

平成二十八年度の卒業論文題目は次のとおりです。

| 氏名 | 卒業論文題目 | 指導教員 |
|-------|-------------------------------|-------|
| 新井 瑛理 | 米ゲルの加工特性の品種間差異について | 信岡 谷口 |
| 生熊 哲也 | 飼料用米(米ゲル)のコスメ素材としての検討 | 信岡 谷口 |
| 石村 良子 | 近年の日本における食肉消費の新たな動向(鶏肉を中心として) | 信岡 谷口 |
| 小出 将利 | 富士ミルクランドを軸とした大規模な酪農の六次産業化について | 信岡 谷口 |
| 古賀 文朗 | 富士ミルクランドを軸とした大規模な酪農の六次産業化について | 信岡 谷口 |
| 児玉 瑠佳 | 米ゲル加工品の低アレルギー性の検討 | 信岡 谷口 |
| 笹崎 彰文 | 牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発 | 信岡 谷口 |
| 塩月 貴子 | 大規模養鶏におけるグループ産業化 | 信岡 谷口 |
| 清水 美咲 | ワラペレット給与による肥育牛の摂食状態の変化 | 信岡 谷口 |

| | | |
|-------|--------------------------------------|----|
| 白土 克暁 | 富士ミルクランドを軸とした大規模な酪農の六次産業化について | 信岡 |
| 辻井 強志 | 飼料用米品種の登熟期間中の水管理が収量に及ぼす影響 | 信岡 |
| 永井明日佳 | 家族経営型酪農の六次産業化について ―I牧場の事例を中心として― | 信岡 |
| 長瀬 遙佳 | 米ゲル(粳米、精米)の二次加工(パン等)の特性について | 信岡 |
| 西川 拓磨 | 飼料用米生産における鶏糞堆肥施用の経済効果・化成肥料との比較を中心として | 信岡 |
| 野間口 涼 | 生協を軸とした飼料用米事業の展開と課題―G生協の事例分析を中心として― | 信岡 |
| 堀部 朋也 | G養鶏農協における種卵供給事業の展開と課題 | 信岡 |
| 御厨 隆紀 | 今日における肉牛一貫経営の意義 | 信岡 |
| 山崎明日香 | 牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発 | 信岡 |

| | | |
|-------|------------------------------|----|
| 山地 祥太 | 牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発 | 信岡 |
| 山本 貴明 | 養豚における六次産業化の展開―耕畜連携を視野に入れて― | 信岡 |
| 山本 雄介 | 飼料用米(米ゲル)のコスメ素材としての検討 | 信岡 |
| 綿貫 浩志 | 千葉県における酪農経営の動向と後継者育成 | 信岡 |

ふじみの寄稿原稿(教員)

学生は面白い

畜産学科家畜衛生学教授
村上 覚史

私はいつも朝五時に起き、六時に電車に乗って大学に向う。冬だと朝五時はまだ暗く、丁度南西の空にさそり座が立ち上がってくる時刻だ。大学に行かない休みの日の夕暮れ時には、駅のホームから富士山が夕焼け空にくっきりと見え、その手前の丹沢山塊の端に大山が小さく眺められる。夏は爽やかな朝の風が東京湾から吹いてきて、気持ちがいい。江戸川、荒川、墨田川、多摩川そして相模川と大きな河を五つ渡り、大学に着く頃は八時十五分ごろである。こうして私と同じように朝早く大学に通ってくる学生も中にはいると思うと励みになる。しかし、遠いという理由もさることながら、近頃の八時台の都心はかなりの人で混雑しており、それを避けたいというのが本音のようだ。

九時から授業が始まり、教える側の私にとって一番楽しい授業は動物組織解剖学だ。学生も私の授業を楽しんでいるようだ。その授業のはじめは、解剖学の歴史から教えている。解剖学は十三世紀ごろから西洋で人間の身体を調べることから始まった。レオナルド・ダ・ビンチ以降、西洋人の描く骨格の描写は誠に緻密で的確、さすが科学の本来の図柄である。しかし、ちよつとその百年前の人体解剖図(図1)はなんとも滑稽で、これを学生に見せると、

げらげら笑う。次に見せるのは鎌倉時代の骸骨の図(図2)で、こちらの方は漫画チックなデザインとは言

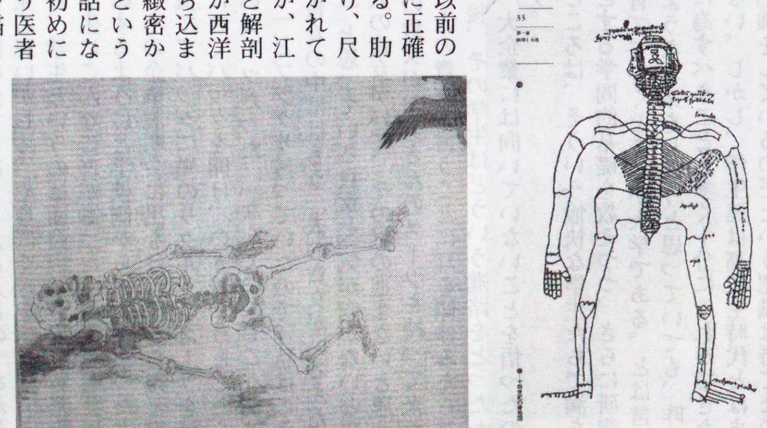


図1 ダビンチ以前の解剖図



図2 鎌倉時代: 九相詩絵巻より

え、ダビンチ以前の図よりはるかに正確に描かれている。肋骨は十二本あり、尺骨や橈骨も描かれている。ところが、江戸時代になると解剖学という学問が西洋から日本に持ち込まれ、西洋流に緻密かつ的確なのかというとまったくお話にならない。まず初めに山脇東洋という医者が人体解剖図を描くが、これがなんとも幼稚な図(図3)で、鎌倉時代の描写力はいったいどこに行つたのかと疑いたくなる。その後、西洋に負けないほどの図を日本人は描くのであるが、そんな話をしながら解剖学の授業を進めていた。

最近、学生による授業評価というものが実施され、学生がフリーコメントを書く。学生たちは、私の授業はおもしろいとか、字や図をもっと大きく書いてほしいとか、なんだかんだと思いいいことを言ってくる。そのコメントの中で「笑いながらしゃべるのはやめてほしい」というコメントが気になった。その学生のコメントをあれこれと考えていたら佐藤愛子の「血脈」という小説の一節を思い出した。ある美大の隣には名の知れた動物園がある。その動物園におかずを買う金がなくなり、大学側の崖から隣の動物園に釣り糸にミミズを付けて垂らしてみたらホロホロ鳥や七面鳥が釣れたという。釣り上げて食ってみたら何ともこれが美味しいので病みつきになった。とうとうその行為が園長にも発覚し、園長がその大学の学長に「お宅の猿どもは・・・」と抗議文を書いたという。それを受け取った美大の学長の返事が振るっている。「貴園の猿は檻の中に入っているから問題はないでしょう。しかしわが校の猿は放し飼いでありませう。どうか、ホロホロ鳥と七面鳥はそちらで守っていただきたい」。今だったら美大生の泥

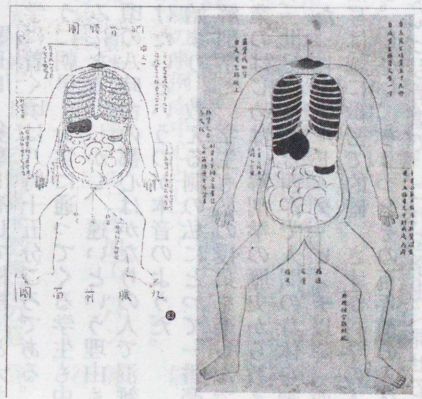


図3 江戸時代：山脇東洋解剖図

棒行為云々で処罰され、SNSで叩かれ、学長が報道関係者の前で「この度は、当学生のあるまじき行為に対し」と頭を下げている映像がテレビに映ったかもしれない。「笑いながらしゃべるのはやめてほしい」という学生のコメントには、現代の人間の生まじめさ、人と人とのつながりの希薄さを垣間見る思いがして、やりにくさを感じた。しかしながら、学生というのは面白い。ある自然派の感じの四年の女学生にこんなことがあった。企業説明会にはスーツ姿で出席するようにと学校側から指示があったように、翌日には、その企業説明会に出なければならぬと思い込み、自宅で慌ててバックを開け、いざ着ようとしたらなんと親父の黒いスーツだった。「なんでいつもこう私はバカなんだろう！」とブツクサ言っていたので、私はこう話してあげた。「貴女の中にはもう一人の貴女がいるんだよ。「ねばならない」と思っている貴女と、気が向かないと思っているもう一人の貴女がいて、その気の進まないと思っ

ているもう一人の貴女が、お父さんのスーツを持って来たんだ。そのもう一人の貴女の言うことに耳を傾けみたらどうですか。その後、その学生はどういう進路をとったか覚えていないが、大企業には向いていないことを悟ったのではないかと思う。大学というところは、そういう愉快な学生たちで満ちている。学ぼうとする学問的基礎を教えつつ、さらに研究を通じて学生を育てていくところが大学である。とは言え、なかなかそのような本業をしようと思っても、昨今、いろいろと他に為すべきことも多く十分にそれができたかどうかかわからない。しかし、学生達は高校生時代とはまた別なやり方で勉強をしているのだという認識は持っていた

はないかと思う。つまり、答えが分かっている問題をやるのではなく、答えがどう出るか分からない問題に取り組み、別の言い方をすると誰もやっていないことを追求するところに面白みがあるといても良い。研究という分野を学生達と多少なりともやって来られたことは、私の人生においてとても有意義なことだと思っている。気難しい時代に君達と付き合うことができ、気落ちしていた時はよく励まされ、また研究を通じて君達との交友を深めることができた。誠にありがたい限りである。

集う学友

逃げるは恥だが役に立つ

畜産学科

4年 堀切 眞太郎

このキャンパスを始めて訪れた2013年の4月、私には特に夢も希望もありませんでした。浪人生活中に学力よりも動機の面でくじけ、某学部への進学を諦めた私は、最後のあがきと一番得意だった生物学に關係のある大学・学部を探し、この東京農業大学の農学部畜産学科に願書を送りました。幸いにも合格通知を頂き、入学した私が次に考えなければならなかったのは、この大学生活で何を学ぶのかでした。家畜やそれにまつわる学問というのは馴染みがなく、それまで考えたこともなかった分野であったので、中学高校の生物学しか知らない私にとっては、この大学でやっていけるとは思えなかつたのです。何を学びたいのか分からないまま大学生活が始まる中、私の目に留まったのは家畜繁殖学の文字でした。家畜をモデルとして卵子などの研究をし、それを人間の医学にも応用することの出来る学問、私にとっては思いもよらない発見でした。これならば、今まで勉強した知識を基礎として活かすことが出来るかと考えたのです。家畜の生態や飼養方法など畜産についての知識は乏しい私は、この学問以外に自分が大学で生きる

道はないと考え、この研究をすることの出来る家畜繁殖学研究室で学ぶべく勉強を始めました。3年生へと進級し、私は家畜繁殖学研究室に所属することになりました。それまで授業や部活動で完結していた大学生活でしたが、研究室での活動が加わることで私は3年目にして初めて、充足感を得たように感じました。実際に自分の手でウシの卵子を扱い、培養し、結果を出す行程がとても楽しかったのです。責任感を伴い、プレッシャーを感じることも多い実験でしたが、その分上手くいった時の達成感は今まで味わったことのないものでした。また人間關係の変化、様々な考え方を持つ人たちに出会えたことも大きな要因だと思います。自分よりも遥かに経験を積んだ先輩方や、十人十色の同期と関わる中で、実験以外にも遊びや仕事への考え方など、多くのことを学ぶことが出来ました。

タイトルにしたこの言葉は元々ハンガリーのことわざであり、端的には「自分の得意分野で勝負をしろ」という意味らしいです。甘えて逃げたと自分を責め、理想と現実のギャップに悩むことは、誰もが経験することだと思います。しかし、自分が一番得意だと思ふこと、好きなことが出来る道を選ぶことが、結果的には人生を豊かにすると私は信じています。

つらいけど最高に楽しい

畜産学科

3年 大里 幸乃

私は、ごく普通の大学生でした。授業へ行つてアルバイトをして、遊んで、「普通に楽しい。」大学生活を送っていました。しかし、畜産物利用学研究室の一員として、模擬店代表という形でハムベーコンの製造に携わらせていただいた半年間は、あつという間で、毎日一生懸命で「つらいけど最高に楽しい。」そんな日々であつたと思います。

優しく見守つて、アドバイスを相談に乗ってくださつた先生方をはじめ、頼りになる先輩方が丁寧に製造を教えてください、研究室へ戻れば多くの先輩方が製造のことだけではなく些細なことまで気にかけてくれ、優しく声をかけてくださりました。そして何よりも、一緒に製造を朝から晩まで、楽しい時もしんどい時も一緒に過ごしてきた同じ模擬店係をはじめとして、三年生全員に支えられ助けられました。

製造当初、私たち模擬店係は、わからないことだらけで、ベーコンをつくることで精一杯であり、室員に負担をかけるないようにと考え、自分達で何とかやろうと思つていました。しかしその考えと行動は、それなりのやりがいを感じることができたけれど、独りよがりなもので他の三年生か

らは製造では何がおこっているかわからないという声を耳にし、協力的に参加してくれた人は少なかつたと思います。私たちは、目の前のことに意識がいきすぎてしまいこのハムベーコン製造は「三年生全員、みんなで作り上げる」という大事なことを忘れていました。

このことに気が付いてからは、製造工程の全部を室員にまんべんなくまかせ、私たちは気持ちよく、やりやすい環境にすることを念頭にして取り組むことにしたところ、製造は良い方向へと変化していきました。部活・収穫祭準備で忙しくても時間の合間を縫って製造に来てくれた人、毎日製造のお手伝いに来てくれた人、いつも明るいみんなのムードメーカー。三年生全員の一言紹介が出来てしまいうなほど、収穫祭前の製造ではみんな楽しそうに協力的に参加してくれました。おかげで、今年も多くの皆様に伝統のハムベーコンを手にとっていただき、無事終えることが出来ました。

模擬店代表としてすべてを終えた時、今まで経験したことのない達成感とやりがいを感じました。しかしこの時一番に感じたことは、私は友達、先生、家族、多くの人に見守られ、支えられて生きているのだということ。当たり前すぎて忘れがちなことを思い出させてくれました。必死に悩んでもがいて一生懸命ハムベーコンを作つて「つらいけど最高に楽しい。」この日々と一緒に過ごした思い出と仲間が私の宝であり誇りです。

大学二年間を振り返って

畜産学科

2年 荻谷 哲也

私の実家は畜産業を営んでおり、(深雪の郷くびき牛)のブランドのもとに肉牛を飼育しています。その為、小さい頃から父の働いている姿を見てきました。最初は自分の体の何倍、何十倍もある牛を見て近づくことさえも怖くて出来ませんでした。しかし、父と一緒にエサの給餌や県内外の市場、農家さんに行き牛と触れ合うことで牛に対する気持ちが変わり、自分も将来はこの仕事をやりたいと思うようになりました。私は現在の肥育経営から、一貫経営に経営方針を変えたいと考えています。その為、必要な繁殖知識等を詳しく学びたいと思いますこの学校に入学しました。

二年生になってからは、一般教科を始め専門的な内容の授業が始まり講義が難しくなりました。正直、ついていくのが大変な講義もありますが、難しくなった分一年生の時よりもやりがいを感じるようになりました。どうすれば発情の同期化が出来るのか、ホルモンを上手く活用するためにはどうすればいいのかなど、多くの疑問も出てきて講義を受けるのがますます楽しくなりました。これらの事を踏まえて、三年生からの研究室もしっかり考えていきたいと

思います。

大学生活では、勉強だけではなく色々な人と出会うことが出来ました。私が出会った人達は、家が農家や非農家関係なく仲良くしてくれました。困った時には、真剣に話を聞いてくれるなど力になってくれます。また、いつも笑顔にさせてくれる大切な友達です。この二年間が、充実出来ているのは友達のおかげだと思います。

大学生活も、もうすぐ折り返し地点となります。この二年間は、思っていた以上にあっという間に過ぎたように感じます。しかし、とても濃い二年間でした。畜産についての知らない知識を深めたばかりではなく、人間としても成長できたのではないかと思います。

残り二年となった大学生活の中で、やり残したことが無いように在学中に沢山の事を学び自分の力にしていきたいと思えます。また、積極的に色々な農家さんに出向き、現場での知識・技術も習得したいと考えています。

卒業後は、地元に戻り父の跡を継ぎたいと考えています。そして飼養頭数も増やし、地産地消・安全安心をモットーにより良いお肉を消費者に届けるのが夢です。消費者に「海外のお肉に比べて値段が高いけれど、美味しいお肉を安心して食べられるから」と言って、買ってもらえるようにしたいです。

その夢を実現させる為にも、残り少ない大学生活を一日一日大切に過ごしていきたいです。

大学生生活

畜産学科

1年 本間 みのり

こんにちは、新潟県出身の本間みのりです。

初めに、私の名前の由来を説明します。私が生まれた時、両親が住んでいたアパート前には、県の農業総合研究所の試験田がありました。試験田の稲穂が田んぼ一面に実っている様子を両親が見て、秋生まれでもあることから「みのり」と名付けてくれました。そのような名前の由来を持つため、東京農業大学に入学が決まった時は何かご縁があるなど感じると共に名前に恥じないようしっかり勉強しようと決意を固めました。

この大学に入学してから気づいたことを挙げます。

まず厚木市の気候です。新潟県は曇りや雨の日が多く、年間を通じて日照時間が少ない県です。冬になると空一面厚い雲に覆われ、雪下ろしの雷も鳴り始めます。貴重な晴れ間は数日しかありません。一方、厚木市は雲一つなく毎日晴れています。12月でも厚木市は晴天が続き山々は見事に彩られ、路上に積もるのは雪ではなく落ち葉です。そのような差異は知識では知ってはいましたが、実際に体験すると大きく違いました。この天候の違いは1人暮らしの私にはありがたいです。なぜなら、冬場の野菜安いからです！

次に東京農業大学の授業です。授業内容や課題レポートに要求されるレベルも高く、慣れるまでにかなり時間がかかりました。また畜産において様々な分野で活躍している教授達、農業や動物について既に多くの知識や経験を持っている友人達。そのような人々に囲まれ専門知識を学ぶため、私も勉強しなくてはという意欲が掻き立てられます。授業の不明点や基礎的な事を教授に伺いに行くと、根気よく丁寧に教えてくださるのでいつも助けてもらっています。

専門の授業だけでなく、一般教養科目も充実していることに驚きます。特に英語です。私の英語の先生はチュニジア人の女性の先生です。授業・宿題・テストの説明文がすべて英語なのは勿論、シラバスまでもが英語で書かれていました。当初は授業に参加し先生の話を聞くだけで精一杯で、自分の意見を言う余裕はないうらい大変でした。しかし授業の疑問点や英検への不安等、個人的な相談を打ち明けると親身に答えてくださる良い先生でした。もともと先生に伝わるように英語を頑張ろうと思います。本当に恵まれた環境で勉強できることに喜びを感じています。

最後に、私の名前の由来には「実り多い人生になって欲しい」という両親からの願いも込められています。将来、この名前を生かして畜産関係の仕事がしたいと思っています。

平成 27 年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書 平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年度 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | 決算額 | 予算額 | 差 額 | 備 考 | |
|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------------------|
| 会 費 | 新入生 (H28 年) | 1,260,000 | 2,070,000 | 810,000 | 新入生：10,000 円×126 名 |
| | 編入生 (H28 年) | 15,000 | 15,000 | 0 | 編入生：5,000 円×3 名 |
| | 過年度分 | 320,000 | 1,910,000 | 1,590,000 | 在学生：10,000 円×32 名 |
| 普通預金利息 | 473 | 300 | △173 | | |
| 前年度一般会計繰越金 | 4,555,083 | 4,555,083 | 0 | | |
| 合 計 (A) | 6,150,556 | 8,550,383 | 2,399,827 | | |

支出の部

(単位：円)

| 科 目 | 決算額 | 予算額 | 差 額 | 備 考 |
|----------------|-----------|-----------|------------|--------|
| 収穫祭特別会計費 | 291,906 | 693,000 | 401,094 | |
| ふじみの印刷費 | 298,080 | 300,000 | 1,920 | |
| 卒業祝賀会費 | 58,194 | 180,000 | 121,806 | |
| 卒業記念品費 | 163,300 | 212,000 | 48,700 | |
| 新入生歓迎会費 | 39,312 | 150,000 | 110,688 | |
| 消耗品費 | 0 | 30,000 | 30,000 | |
| 特別講演会費 | 0 | 0 | 0 | |
| 備品 | 8,662 | 50,000 | 41,338 | 会旗ポール代 |
| 雑費 | 1,512 | 30,000 | 28,488 | 振込手数料 |
| 予備費 | 15,000 | 6,905,383 | 6,890,383 | 過払い金返金 |
| 合 計 (B) | 875,966 | 8,550,383 | 7,674,417 | |
| 収支差額：(A) - (B) | 5,274,590 | 0 | △5,274,590 | 次年度繰越金 |

平成 28 年度畜友会活動報告

平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 28 年

- 6 月 22 日 平成 28 年度畜友会定期総会
平成 28 年度畜友会・畜産学科収穫祭実行委員会
(統一本部) の立ち上げ
(於 第一講義棟 1102 教室)
- 9 月 29 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 125 回体育祭厚木団結式 出席
(於 レストランけやき)
- 10 月 22 日 厚木パレード 参加 (於 厚木一番街)
- 10 月 5 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 125 回体育祭畜産学科統一本部本部開き
(於 新学生会館)
- 10 月 28 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 10 月 29 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 参加
10～30 日 (家畜苑、研究棟アート、神輿展示、特別企画、宣伝隊)
- 10 月 31 日 第 125 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 11 月 21 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 125 回体育祭畜産学科統一本部本部閉め
(於 レストランけやき)
- 12 月 1 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 125 回体育祭厚木慰労会 出席
(於 レストランけやき)

平成 29 年度

- 3 月 日 畜友会誌「ふじみの」53 号発行
- 3 月 21 日 平成 28 年度 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
(於 厚木キャンパス)

平成 28 年度 畜友会予算
(平成 28 年 6 月 1 日 ~ 平成 29 年 5 月 31 日)

I. 一般会計予算

収入の部 (単位: 円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 差 異 | 備 考 | |
|--------|---------------|-----------|-------------|-----------|---|
| 会 費 | 新 入 生 (H29 年) | 2,100,000 | 2,070,000 | △ 30,000 | ① |
| | 編 入 生 (H29 年) | 25,000 | 15,000 | △ 10,000 | ② |
| | 過年度分 | 2,170,000 | 1,910,000 | △ 260,000 | ③ |
| 雑 収 入 | 300 | 300 | 0 | ④ | |
| 前年度繰越金 | 5,274,590 | 4,555,083 | △ 719,507 | | |
| 合 計 | 9,569,890 | 8,550,383 | △ 1,019,507 | | |

- ①新入生: 10,000 円 × 210 名
②編入生: 5,000 円 × 5 名
③過年度分: 10,000 × 213 名 + 5000 × 8 名
④預金利息を含む

支出の部 (単位: 円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 差 異 | 備 考 |
|----------|------------|------------|-------------|-----|
| 収獲祭特別会計費 | 693,000 | 693,000 | 0 | |
| ふじみの印刷費 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 卒業祝賀会費 | 180,000 | 180,000 | 0 | |
| 卒業記念品費 | 220,000 | 212,000 | △ 8,000 | ⑤ |
| 新入生歓迎会費 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 新入生親睦会費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 消耗品費 | 0 | 0 | 0 | |
| 特別講演会費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 備 品 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 雑 費 | 7,916,890 | 6,449,510 | △ 1,467,380 | |
| 予 備 費 | 9,569,890 | 8,094,510 | △ 1,475,380 | |
| 合 計 | 19,139,780 | 16,189,020 | 2,950,760 | |

⑤ 4 年生 220 名 × 1,000 円

平成 27 年度 収獲祭特別会計収支決算報告
平成 27 年 6 月 1 日 ~ 平成 28 年 5 月 31 日

II. 収獲祭特別会計

収入の部 (単位: 円)

| 科 目 | 決 算 額 | 予 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|------------|---------|---------|------|-----|
| 一般会計からの繰入金 | 693,000 | 693,000 | 0 | |
| 普通預金利息 | 81 | 0 | △ 81 | |
| 合 計 (C) | 693,081 | 693,000 | △ 81 | |

支出の部 (単位: 円)

| 科 目 | 決 算 額 | 予 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|-----------------|---------|---------|-----------|-----|
| 統 一 本 部 | 150,359 | 400,000 | 249,641 | ① |
| 宣 伝 隊 | 0 | 50,000 | 50,000 | |
| 特 別 企 画 | 0 | 0 | 0 | |
| 装 飾 | 0 | 50,000 | 50,000 | |
| 家 畜 苑 | 80,365 | 100,000 | 19,635 | ② |
| 体 育 祭 | 60,750 | 40,000 | △ 20750 | ③ |
| 雑 費 | 432 | 3,000 | 2,568 | |
| 予 備 費 | 0 | 50,000 | 50,000 | |
| 合 計 (D) | 291,906 | 693,000 | 421,844 | |
| 収支差額: (C) - (D) | 401,175 | 0 | △ 401,175 | |

- ①団結式、慰労会の料理代、飲料代
②家畜搬入に伴う交通費、当日衣装代
③応援合戦衣装代

上記の通り報告する。
平成 28 年 6 月 24 日

畜友会会長 桑 山 岳 人 ㊟

監査報告書

畜友会会則第 9 章、29 条及び 30 条の規定に基づいて平成 28 年 6 月 11 日に平成 27 年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。
平成 28 年 6 月 11 日

平成 28 年度畜友会監査委員

原 ひろみ ㊟
小川直輝 ㊟

黒澤 亮 ㊟
山口智也 ㊟

平成 28 年度畜友会役員

平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日

| 役職(教員) | 氏 名 | 研 究 室 |
|--------|-----------|-----------|
| 会 長 | 桑 山 岳 人 | 家畜繁殖学研究室 |
| 副 会 長 | 高 橋 幸 水 | 家畜育種学研究室 |
| | 多 田 耕 太 郎 | 畜産物利用学研究室 |

| 執行委員 | 氏 名 | 研 究 室 |
|--------|--------------|-------------|
| 委員長 | 3年 鶴ヶ崎 世 結 | 家畜飼養学研究室 |
| 副委員長 | 2年 関 和 真 | 未 定 |
| 庶 務 | 3年 松 本 奈 々 | 畜産マネジメント研究室 |
| | 2年 大 平 祐 輔 | 未 定 |
| 会 計 | 3年 眞 子 由 衣 | 畜産物利用学研究室 |
| | 2年 砂 原 香 夏 子 | 未 定 |
| 企画・渉外 | 3年 鈴 木 飛 鳥 | 家畜繁殖学研究室 |
| | 2年 石 井 ゆ き こ | 未 定 |
| | 2年 和 田 未 来 | 未 定 |
| 編 集 | 3年 外 内 万 夏 | 畜産物利用学研究室 |
| | 2年 小 川 凌 汰 | 未 定 |
| 監事(教員) | 原 ひろみ | 畜産生理学研究室 |
| | 黒 澤 亮 | 家畜飼養学研究室 |
| 監事(学生) | 3年 山 口 智 也 | 家畜育種学研究室 |
| | 2年 織 田 聡 美 | 未 定 |

※学年は平成 29 年 3 月現在

特別会計予算

(平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計予算

畜友会援助費

| 収入の部 (単位:円) | | | |
|-------------|---------|---------|-----|
| 科 目 | H28 年度 | H27 年度 | 差 異 |
| 一般会計からの繰入金 | 693,000 | 693,000 | 0 |
| 合 計 (A) | 693,000 | 693,000 | |

| 支出の部 (単位:円) | | | | |
|-------------|---------|---------|----------|----|
| 科 目 | H28 年度 | H27 年度 | 差 異 | 備考 |
| 統 一 本 部 | 310,000 | 400,000 | 90,000 | |
| 宣 伝 隊 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 備 品 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 特 別 企 画 | 0 | 0 | 0 | |
| 装 飾 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 家 畜 苑 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 体 育 祭 | 130,000 | 40,000 | △ 90,000 | ⑥ |
| 雑 費 | 3,000 | 3,000 | 0 | |
| 予 備 費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 合 計 (B) | 693,000 | 693,000 | 0 | |

⑥ 昨年よりも人数が増えた為
体育祭練習(1日分)、及び体育祭当日(復路)の交通費給
与の為
交通費: 420(片道)×3回×55名

農友会学科助成金

| 収入の部 (単位:円) | | | | 備考 |
|-------------|------------|-----------|-----------|----|
| 科 目 | 農友会厚木支部助成金 | | 差 異 | |
| | H28 年度予算額 | H27 年度決算額 | | |
| 畜産学科助成金 | 1,433,000 | 1,670,393 | △ 237,393 | |
| 預金利息 | 0 | 0 | 0 | |
| 合 計 | 1,433,000 | 1,670,393 | △ 237,393 | |

| 支出の部 (単位:円) | | | | |
|----------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 科 目 | 農大厚木支部助成金 | | | 備考 |
| | H28 年度予算額 | H27 年度決算額 | 差 異 | |
| 1 事務費 | 2,000 | 7,145 | △ 5,145 | |
| 2 記録費 | 1,000 | 0 | 0 | |
| 3 公用費 | 2,000 | 4,000 | △ 2,000 | |
| 4 交通費 | 21,000 | 173,410 | △ 152,410 | 会議参加交 通費のみ |
| 5 神輿代 | | | | |
| 6 パネル代 | 148,000 | 149,488 | △ 1,488 | |
| 7 応援合戦・ 衣装代 | 137,000 | 131,252 | 131,252 | |
| 8 学内装飾費 | 193,000 | 216,182 | △ 23,182 | |
| 9 収穫祭体 験企画費 | 411,000 | 496,782 | △ 85,782 | 風船配布を 行わない為 |
| 鋼管リース代 | 120,000 | 113,272 | 113,272 | |
| 運 搬 代 | 132,000 | 129,600 | 129,600 | |
| 装 飾 代 | 131,000 | 147,642 | △ 16,642 | |
| 活動運営費 | 28,000 | 106,268 | △ 78,268 | |
| 10 雑 費 | 3,000 | 1,404 | 1,404 | |
| 合 計 | 1,433,000 | 1,670,393 | △ 237,393 | |

第十七回厚木キャンパス収穫祭・第二五回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

今年度第一七回収穫祭及び第二五回体育祭畜産学科統一本部の活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動・神輿作成・研究棟アート・特別ステージ企画・家畜苑・櫓装飾・体育祭演舞を行いました。

統一本部（委員長・副統一委員長）の活動としては、夏季休暇からの部門も活動が本格的になり、不自由なく円滑に進めるために、先生方をはじめ第一七回収穫祭実行本部・農学科統一本部・バイオセラピー学科統一本部・世田谷の統一と連絡を取り合い成功させるため全力を尽くしました。

畜産学科統一本部全体の活動としては、新一年生親睦会・新入生歓迎相模川BBQを開催し、一年生に畜産学科統一本部の魅力を伝えることができました。また、例年と同様に定期総会・懇親会・畜産学科統一本部開き・慰労会も行い、また世田谷キャンパスと合同で全体団結式・慰労会にも参加させていただきました。第一七回収穫祭では終夜の時間も限られている中、全員で協力して最高の収穫祭にできたと思います。第二五回体育祭は昨年度優勝というプレッシャーがありながらも挑み、結果演舞一位・競技一位・櫓装飾六位で総合順位二位という華々しい成績をとることができました。

来年度は今年度に負けないよう、楽しく活動し体育祭で

特別企画

特別企画とは、収穫祭前夜祭・本祭で行われるステージ企画の作成及び運営を実施している部門です。

今年度の畜産学科統一本部特別企画部門は「NBC (Nodai Beauty Contest)」と「絆々サークル王決定戦」の2つを企画の作成・運営をしました。

「NBC」とは、東京農業大学で最も美しい男女を決めるコンテストです。この企画は例年畜産学科が本祭の1日目のトリを任されており、今年は男子4人女子4人計8人の美男女が参加して下さり大いに盛り上がりました。もう1つの企画である「絆々サークル王決定戦」は今年で2回目となる企画です。この企画は、農大にある各サークル代表3人が参加者となりサークルの絆を確かめながらサークルの王者を決める企画です。どちらの企画も試行錯誤しながら部門全員で協力し本番を成功させることができました。

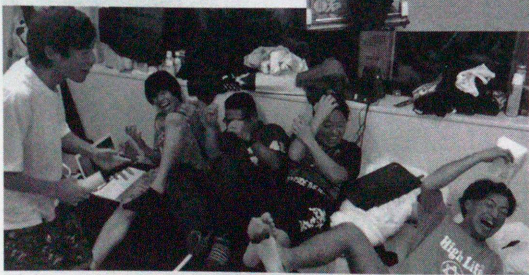
去年・おとし同様体育館でのステージ企画となり他学科・総務部と協力しあい良いステージ企画を作ることができました。活動の中でどのようにしたら参加者・観客が楽しんでくれるかと悩む毎日でした。ですが、本番になり自分たちが考えた企画で参加者・観客の楽しそうな笑顔を見てとてもうれしい気持ちと共に頑張ってきてよかったなと思いました。

来年は今年の反省点を生かしつつ、今年よりももっと参加者・観客に楽しんでいただける畜産学科統一本部特別企画

は農学科に勝ち優勝したいです！



画部門らしい企画を作ったと思います。



宣伝隊

宣伝隊は大根と鮎の書かれた浴衣と宣伝隊法被を着用し、収穫祭の宣伝を行いました。

八月にはあつぎ鮎祭りや全学応援団のリーダー公開、ジャズナイトフェスティバルに参加しました。それぞれのイベントでうちわ配りや農大名物大根踊りの披露を行い、収穫祭の宣伝をすることができました。

九月・十月には、本厚木駅など各駅でのビラ配りと近隣の店にビラやポスターを置かせていただく店回りを中心に宣伝活動を行いました。また、十月二十三日には厚木一番街で厚木パレードを行いました。二度の雨天中止によつてパレード開催の宣伝がほとんどできなかったにも関わらず、当日は多くの方にパレードを見ていただくことができました。神輿や大根踊りの披露により、農大生だけでなく地域全体で盛り上がることであったのではないかと感じています。

収穫祭当日には、野菜無料配布と抽選会を行いました。野菜無料配布は例年通り大盛況でとても多くの方々に来ていただくことができました。また、抽選会も米や農大グッズを景品として行い、二日間で千人近くの方に参加していただくことができました。

私たち宣伝隊の努力が実を結び、今年度は昨年度より来場者数を二千から三千人ほど増加させることができました。来年度は常連の方だけでなく、より多く新規の方に来ていただけるようなアイデアを取り入れつつ宣伝活動を

行っていきたいと考えています。

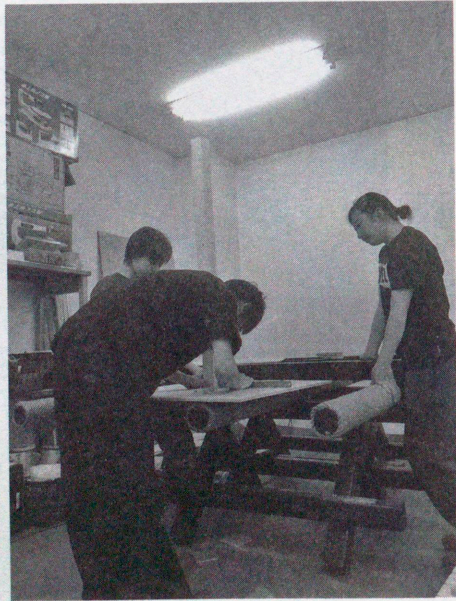


神輿

今年度の神輿部門の活動内容は、厚木の一番街で催される「厚木パレード」で神輿を担ぎ収穫祭の宣伝を行いました。本祭では神輿の展示と厚木キャンパス内での一般投票が行われました。また、前年度同様キャンパス内で練りが行われました。そして今年度は世田谷キャンパスに神輿を持っていくことができ、世田谷投票の後に後夜祭で神輿を担ぎ後夜祭を盛り上げました。

今年度は8月から活動を開始し、3年生2人2年生1人と少ない人数で約3か月間活動してまいりました。伝統的な畜産学科の神輿の型を崩さず、メインの堂が目立つよう周りはシンプルに黒や金で統一し、鳥居や屋根には畜産学科のマークを取り入れました。そして今年度は堂を華やかに製作しました。華を彫り物のテーマとして取り入れカラフルに装飾しました。さらに紙粘土で牛とイノシシを作成して堂の障子から突き破るような配置にすることで、これまでにない面白さと畜産らしさが出せたと思います。収穫祭当日の朝まで作業をしていましたが、その甲斐もあり厚木キャンパス内での一般投票の結果は優秀賞をいただくことができました。これは畜産の神輿に関わってくださった全ての方々のおかげだと思っています。本当に感謝しています。

来年度は、畜産らしさを崩さずさらに新しいことに挑戦したいと思っています。自分の納得のいく神輿を製作し、来年度も優秀賞を狙っていきたいと思っています。



体育祭

畜産学科は昨年度、総合優勝、応援合戦の部第二位を収め優勝旗を厚木キャンパスに持ち帰りました。そんなプレッシャーの中委員長は「闘牛」というストーリー性のある、どの学科にも真似できない演舞構成を練り上げました。演舞構成だけでなく、衣装も細部までこだわり一着丁寧に作り上げました。

体育祭当日、応援合戦ではまるで一本の演劇のような作品を皆様に観て頂けたことと思います。また、力を入れてきた、先生頑張っ、学科リレー、玉入れ、綱引きでは、私たちが驚くほどの好成績を残すことができました。なかでも綱引きは次々と勝ち進め、決勝で農学科と当たり、とても熱い戦いとなりました。畜産学科が一丸となった瞬間でした。

今年度、畜産学科は応援合戦の部第一位、競技の部同率一位、パネルの部六位と昨年度に劣らない結果を残し総合優勝を飾りました。さらに、厚木キャンパス農学部が総合一位から三位を独占するという快挙を成し遂げました。東京農業大学創設一二五周年の節目の年にこのような素晴らしい結果で体育祭を終えられたことは、体育祭に向けてご尽力くださった先生方、先輩方、皆様のお力添えがあったからこそ結果であったと実感しております。有難うございました。

来年度も畜産学科の名、厚木キャンパスの名を世田谷に轟かせるべく、全力を尽くしていきたいと思っております。

櫓

櫓部門では世田谷体育祭に向けて、横10メートル、高さ4メートルの大きなパネル装飾を行っています。今年度は3年生3人と2年生1人という少ないメンバーで夏休みから活動を開始し、パネルの作製や着色を含め約3ヶ月間で作品を作りあげました。シーズン当初はなかなかメンバー全員揃うことができませんでしたが、そんな中どんな時でも温かく真摯に納得するまで作品に向き合う先輩方の姿にとても憧れました。

パネルが完成し、世田谷での設置作業を行うときには畜産学科他部門の方々にもご支援、ご協力を頂きました。2日間にわたった櫓の設置作業で、私たち櫓部門はパネルの作製から展示に至るまで本当に多くの方々からの協力を経てやっと実現することができたのだということを改めて実感することができました。

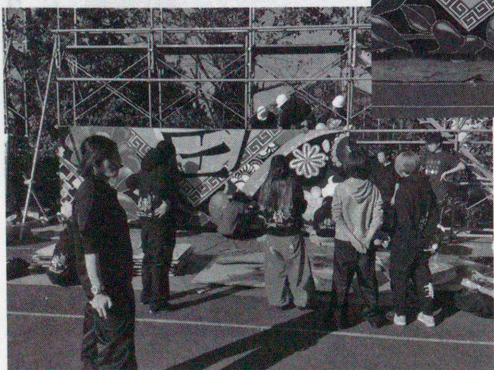
今年度の作品は「鶏」をモチーフに畜産学科らしい、逞しく、力強いものとなりました。メインである鶏はその美しい羽に繊細な波紋のグラデーションが施され、力強く描かれた作品をおおらかに包み込んでくれます。そして何よりも瞳に隠れたかわいさを取り入れたり、様々なところに工夫が行き渡ったとってもキュートな一面を持つその作品は多くの方々を魅了するものだったと思います。

来年度はこれまでとは一味違った表情の、新しい畜産学科の櫓に挑戦していきたいと考えています。私らしさを詰め込んだ自由で楽しい作品をお見せできるように励み、取

どうぞ来年度も宜しくお願いいたします。



り組んでいきたいと思えます。



研究棟アート

研究棟アートとは、研究棟に飾る大きな垂れ幕のことで

す。今年度の研究棟アートは、湘北短期大学側には三年生がデザインした鬮牛と色鮮やかなハイビスカス。けやき食堂側には二年生がデザインした農学部をイメージした馬・カブトムシ・牛の絵を飾らせていただきました。

装飾部門の活動は夏休みの開始とほぼ同時に始まりました。昨年度の装飾部門は四人での作業でしたが、今年度は三年生三人、二年生三人の合計六人での作業となりました。夏休み中は、布を切る作業から始まり、布と布をつなぐ耳というものを作る作業をし、大量の耳と布をミシンで縫い合わせる作業をしました。九月に入ってから布に絵の下書きをし、ペンキで絵を描いていきました。そして布を飾るためにロープを通し、十月二十五日に無事に研究棟に飾ることが出来ました。

最初の布を切る作業や、下書きはとても暑く汗だくになり、ペンキで絵を描く作業では天候や強風に左右されながらの作業になりました。研究棟に飾られた垂れ幕を見た時は達成感と安心感、そして収穫祭で沢山の人の見てもらいたいという期待の気持ちは今でも鮮明に覚えています。

収穫祭二日間は天候に恵まれ、破れることもなく収穫祭を終えることができました。今年度も無事に研究棟アートが完成できたのも皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

家畜苑

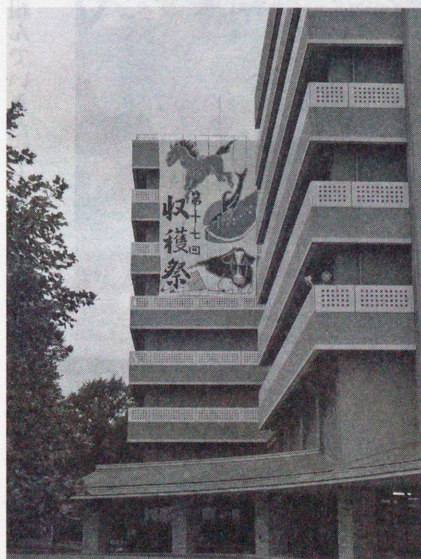
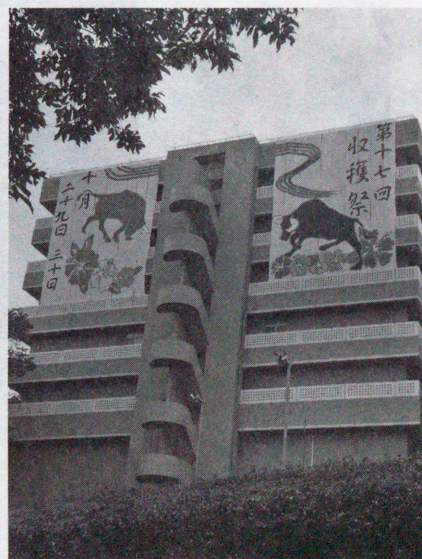
今年の家畜苑は三年生四人、二年生三人という人数で収穫祭のシーズンが始まりました。二年生が少ない状況であったため、先輩方と一緒に一つ一つ作業していき、分からないところは一から教えてもらい、時には的確なアドバイスをもらいながら活動していききました。みんなで目標に持つて作業をしていたので、楽しく収穫祭シーズンを乗り切ることができました。

家畜苑の作業内容は第一講義棟下の広場に設置する家畜苑門、撮影用パネル、展示する家畜の説明パネルと背景パネル、案内看板を作成し、収穫祭の直前には家畜を展示する際の小屋を作りました。また、収穫祭当日には、牛のブラッシング体験、ヒヨコのふれあい体験、バター作りを来客された方に体験してもらい、説明パネルを使った畜産に関する〇×クイズもした。

収穫祭の準備は九月上旬から始まりましたが、メンバー全員がなかなか集まらず、準備が前日までかかりましたが、本番までには完成することができました。家畜の提供は畜産マネジメント研究室、家畜衛生学研究室、家畜飼養学研究室、富士農場などのご協力で借りの事ができ今年も家畜苑を運営する事ができました。また、他の部門の方や一年生の協力があり、家畜苑を成功することができたためとても感謝しています。

来年度は、他の部門と協力していきながら家畜苑を成功させていきます。

来年度も今年度のような素晴らしい作品を作りたいと考えていますので楽しみにしててください。



【結果発表】

体育祭

総合順位.....2位

競技の部.....1位(農学科同率)

応援合戦の部.....1位

樽装飾.....6位

神輿.....1位

※神輿は厚木キャンパス内での順位

東京農業大学農学部畜産学科畜友会 畜友会 会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
 - (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
 - (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
 - (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
 - (5) その他第三条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
 - (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

第六条

(3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

本会は次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 執行委員 1名
- 委員長 2名
- 庶務 2名
- 会計 2名
- 企画・渉外 2名
- 編集 2名
- 監事 4名

第七条

(1) 会長は会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。

(2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条

(1) 本会には連絡委員を置く。

(2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡

第九条

委員会での意見を反映するとともに執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

役員および連絡委員の選出および任期

(1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員のの中から推薦し、総会において決定する。

(2) 執行委員は、執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事はほかの役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

(3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。

(4) 連絡委員は、各学年（1、2年次）および各研究室（3、4年次）で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章 総会

第十条

(1) 総会は定期総会とする。

(2) 総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条

議長は書記2名と議事録署名人2名を選出す

第十一条

総会開催は七日以前に公示しなければならない。

第十二条

(1) 総会は正会員および特別会員の4分の1以上の出席により成立する。

(2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の5分の1を上限とする。

第十三条

(3) 委任状の検査は執行委員が行う。

第十四条

定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告
2. 次年度の役員
3. 次年度の事業計画および収支予算
4. 会則の改正

その他

第十五条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

る。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によつて議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条 (1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条 執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二条 連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開

催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。

2. 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条 本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以つてこれにあてる。但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条 (1) 会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に 応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

(2) 会費は会長および委員長連名で毎年6月に入学対象者に対して請求するものとする。

第二十六条 本会の会計は、所定の形式に従つて処理し、

決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条 (1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もつて執行する。

第三十条 監事は前条目的の為業務監査および会計監査

を行い、その結果を総会において報告する。

尚、必要と認められた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条 本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科、畜友会、規約を平成元年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科、畜友会、会則を制定し施行する。

本会則は、前会則の一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条 (1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条 収穫祭は東京農業大学農友会厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づき収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1. 統一本部
2. 宣伝隊実行本部
3. 特別企画実行本部
4. 学内装飾実行本部
5. 家畜苑実行本部
6. 体育祭実行本部

第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

- 統一本部顧問 若干名
- 統一本部委員長 1名
- 統一本部副委員長 1名
- 統一本部会計 1名

第五条 各実行本部顧問 若干名
各実行本部委員長 各1名
各実行本部会計 各1名

(1) 統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。

(2) 統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。

(3) 統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条 (1) 統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(2) 統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。

(3) 各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。

第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

(1) 6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

会計ならびに各実行本部委員長、で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。

(2) 各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部委員長および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部委員長がこれを務める。

第三章 会計

第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条 予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

第十条 会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条 決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章 付則

第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。

第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施す

る。
本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

各部門委員長より

んだば!

統一本部委員長

3年 鶴ヶ崎 世 結

気つけば3年生になり華の大学生活も残りところ後1年あまり。そんな中私は今年度、畜産学科統一本部統一委員長を務めさせて頂きました。2年になる前、次の委員長になつていた入江さんと横浜に出かけていた時のこと。副統やる気あらへん?返事は本厚木に帰るまでな(笑)と。驚き隠せず自分に務まるのかと凄く戸惑っていましたが入江さんと統本部を盛り上げていきたく決め副統委員長を務めました。一年駆け抜けていざ委員長になった時正直、不安しかなかく特に面白くもなく何か得意なわけでもなく平凡な人間がこんな重役を全う出来るのか?みんなをまとめられるのか?と。しかしそれは余計な心配であり各部門気合いがいつも以上に上つており最後の収穫祭、体育祭成功の為に頑張っている姿を見て今年には全員笑顔で終えると勝手に決めてシーズンを迎えました。今年の畜友会に相応しいタイトルをつけました。「波乱万丈畜友会」この波乱万丈を知りたい方は鶴ヶ崎まで連絡オナシヤ!

今年総勢39名、全力で走り抜けました。今年は3年が多く二言というなら「我」でした。ほんとに強すぎました。大変でした。ですがそれがあたらしく収穫祭満員御礼で終えることが出来ました。

体育祭。この言葉に物凄くプレッシャーを感じました。去年総合優勝をしており交代式の時に優勝旗は相模川を渡らせない!未踏の2連覇をする!と66代目と約束し委員長法を受け継ぎ、肩にかけられた時の委員長法は最高の天気、競技、応援合戦に挑みました。結果は応援合戦1位、競技の部1位、パネルの部6位、総合優勝でした。凄く悔しかったです。と2連覇いけると信じてやってきましたが後ほんの僅かな差が天下分け目でした。ですが表彰台には見たことない光景がありました。それは厚木3学科が独占という快挙。第125回体育祭節目の年にその場にいられたことは忘れられないでしょう。66代目本当にすいませんでした!しか言えないです。体育祭も終わり後夜祭を残すのみ。去年神輿を持って行けず世田谷で審査してもらえなかった今年こそは金賞!と思っていました。表彰こそ

特別企画とは

特別企画部門委員長

3年 山口 智也

みなさんこんにちは。今年度畜産学科統一本部特別企画部門委員長を務めさせて頂きました。畜産学科3年山口智也です。1年生の冬、僕は特別企画のメンバーになり、活動内容などあまり知らなかった僕にとつて不安で仕方なかったのです。さらに同期のメンバーである塚田泰佑と八川小夏は不思議な人達でした。

最初の印象は「緑の男」と「サブカル眼鏡」でした。この二人はよく喋るし盛り上げ上手なのですごく特別企画らしく劣等感みたいなもので悲しくなっていたのも懐かしいです。

特別企画の先輩はやすさんという偉大な人で、最初は「かっこいい」「優しい」「背筋がピンとしている」という印象ですが、ハチャメチャで囂むのが好きでソリティアでいつの間にか仕事が終わっているような不思議な人です。

そんな先輩は僕らが困っている時にはアドバイスをくれて、ダメな時には叱ってくれる心強い尊敬できる先輩でした。そんな偉大な先輩との楽しかったシーズンが終わり、今度は塚田と二人で先輩となり、今までの特別企画を超える歴史最高に面白いものを作ろうと考えていた頃、新たな不思議なメンバーが仲間入りしました。そのメンバーを紹介したいと思います。

まず一人目は松岡亮太という男です。彼の見た目は同年とは思えないくらい貫録を持っており、トーク力が半端ない男気のある不思議な人でした。そんな彼には司会者という仕事を任せました。彼は作業中、将棋をしていたり、長い間睡眠してたり自由奔放でした。ですが終盤になるにつれてステージを盛り上げながら司会を務めることができていたと思ひ、やはりやるべきにはやってくれる男でした。司会者お疲れ様!来年も期待しております!

は逃したものの畜産神輿を世田谷に見せつけられたことはとても嬉しく思いました。来年もこれぞ畜産!という神輿を見せつけてほしいね!

全て終わり、委員長を務めさせて頂いた少なさから成長できました。先生方、二学科統一本部のみんな、総務部、応援団、研究室、部活、サークルと人との繋がりを大事にできたこと。縦にも横にも広がって年輪を広げられたのだと実感しています。関わったすべての人に感謝致します。宣伝隊、神輿、特別企画、家畜苑、装飾、櫓、体育祭と7部門をひたすらNの集団(歴代最強のならず者)として紹介致します。あまり関わらなかった2年生!そして色んなことがあり全員で終えることが叶わなかったけれど私は26人で活動、バカなことを誇りに思っています。3年生!最高の仲間と恵まれました。特に何もしてないでも寝て足がとつともなく臭いと言われ続けたいには足にビニール袋で覆われた委員長に最後までついてきてくれ「ありがと!」

んだば! 来年度統一委員長を務めるバフケットヒューマンは「関 和真」読み方は至って読みやすい。せき かずまです。彼は、先代と自分を足して2で割ったハーフでとても寝るのが誰よりも得意でどこでも寝れる水眠してしまったり体質の持ち主。そしてシーズン中にベットのハムスター(レオパード)を連れてきて癒しになったものの独特の悪臭を部屋に充満させていたことで有名になった曰くつきものハムスターでした。ベツトは大事に統一2人で活動しどことなく去年の自分を見ているような感じがして喜怒哀楽すべて網羅している。言ってみれば変わり者です。引き続き優しく暖かい目で接してください。と簡単な紹介とちよいとエピソードはここまで。和真、統一委員長としてのやるべきことは山ありのよ。本当にある。和真もそれは分かっているはず。委員長としての務めは言ってしまえばない!だけど各部門の環境を作ることや悩みや相談を聞くこと話すことも大切な仕事。何回か言いたと思うけど委員長は偉くはないから。常に仲間がいることを忘れずにね。うん。後は和真が笑って怒って泣いて常に最高の68代畜友会を築いていくのをめっちゃ楽しみに期待してる!

この1年間駆け抜けてきた時間は瞬だっただけで得るものは耐え難くまさに畜友人生に悔いなし!

最後になりましたが、桑山学科長を始めとする諸先生方におかれましては多大なご尽力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。更なる畜産学科畜友会の益々の発展と幸多からんことを祈って本年度畜産学科統一本部67代目統一委員長最後の言葉とかえさせて頂きます。誠にありがと!ございませう。



二人目は稲垣悠平、通称ガッキーです。彼は真面目で体育祭の演舞は完璧でなんでも器用にこなせる男でした。そんな彼には企画長という仕事を任せ、一人で進行台本・司会台本を作成させ参加者や音響の方との打ち合わせをしていました。そんな彼でも本番では忘れ物をしたり、遅れて登場してきたりなど可愛い一面もあり、パニックになったのもいい思い出です。いろんな経験をして着実にレベルアップした彼には来年度の特別企画の委員長をやつていただきます。本当にお疲れ様!企画長さらに委員長としてぶいぶい言わせていってくれ!

いろいろありまして二人になつてしまつたけど、すごく楽しいシーズンでできて僕は幸せでした。来年はしよーもない伝統を守り、また新たな不思議なメンバーでどこにも負けない破天荒で面白くて不思議な特別企画ナンバーワンの「名企画長」「名司会者」になつてくだささい。楽しみにしております。

特別企画の委員長となつて同期の泰佑には感謝しかありませんかな。彼のおかげで全ての企画が際立って面白くなり参加者・観客すべての人を楽しませていたと思います。世界でナンバーワンの「名司会者」と出会えてよかった。本当にありがとう。体育祭では競技の部1位、応援合戦1位、パネルの部6位、総合2位という結果でしたが僕ら特別企画のおかげだと思つています。ステージ企画の部があったら間違いなく1位です。それだけ僕ら特別企画部門は誇りを持ってやっております。

僕自身、結局特別企画らしい面白く不思議でちよつとおかしな人になれませんでした。ですが、大矢さん、岸さん、やすさんという三人の偉大な先輩方。同期の泰佑、小夏、後輩のがつき、亮太、千夏と出会えたことで人として成長できたのではないかと思います。僕は特別企画で一番の幸せ者でした。改めて感謝したいと思います。

最後になりますが、原先生をはじめとする諸先生方、総務・他学科の皆さん、ステージに参加して下さった皆様には準備・本番において多大なご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

甚だ簡単ではございますが畜産学科統一本部特別企画部門委員長である山口智也の言葉とかえさせて頂きました。

山あり谷あり

宣伝隊長

3年 畠

明宏

宣伝隊は3学科合同ということもあり他学科のやり方などが違い、常に意見が違つてまとめるのが大変でした。厚木パレード、抽選会、小田急各駅宣伝活動、店回り、野菜無料配布。どれもなかなか会議で決まらなかつたです。その一番の要因が天候でした。9月、10月は月の半分以上が雨で、外で活動する宣伝隊の一番の天敵でした。雨のたびに次の活動どうするかなど常に話し合つていました。宣伝隊一番のイベントである厚木パレードでは2回も雨でなくなつてしまい、本来なら厚木パレードは中止のはずでしたが神輿部門をはじめとする三学科統一本部の皆さんや、総務部のみなさん、先生方のご協力もあり、本祭一週間前に開催することが出来ました。

三年生になり、なにを一番痛感したかという研究室でした。僕ら三年生は12人いて、12人全員違う研究室でした。当番の日がバラバラで三年生みんなが揃うことがなかなかなく苦労したこともあります。本年度隊長であつた農学科の長谷川健太には本当に苦労をかけた。どうすれば昨年度の様な活動ができるのだろうか常に考えていました。そんなことを考えながら日々活動していたら、自然とみんなそろい始めて活動も円滑にできました。

しかし、ある日、日々築き上げてきたものが一気に崩れました。それは厚木パレードの2回目の全体練習でした。1回目の全体練習では意外と後輩ができていて、心配ないなと思つていたので緊張の糸を切らしてしまつて、2回目の全体練習では散々でした。3年が怒り、2年が泣き、またその後の練習で各学科の色が出てしまい、3年生同士にひびが入り、もう終つたと思ひました。

そこで隊長の長谷川を交え三学科隊長と朝まで話し合いを行い、他学科の考え方が違う事けど最終目的は同じなどお互いが思つてることをすべて吐き出しました。今思い返せばこの話し合いが無かつたら厚木パレードの成功、宣伝隊の成功は無かつたと思ひます。話し合いの大切さを学生のうちに知ることが出来たのは大きい。

自分の後輩は2人でこの2人にはとても感謝しています。自分がこの2人の中から次の隊長を選ぶにあたり1年間みてきて、なかなか答えが出ませんでした。しかし、厚パレが終わつたあたりから二人の変化に気づきはじめ、一番昨年の自分と重なつた人を選びました。その人なら、来年の2年生の気持ちを理解し絶対に楽しい活動を送つてくれると確信しています。

最後に2年間共にした、3年生のみんなありがとう。今回来場者数が2千人以上増えて大成功に終わったこと数えきれないほど会議をしたかいがあつたね。畜産の小野寺、川村、三橋。君たちがいたから僕は最後まで諦めずにいられました。ありがとう。三学科隊長のまほ、ゆうだい。本当にありがとう。1年間ついてきてくれた2年生ありがとう。2年生、あとは任せます。小川、麻衣ちゃん頑張れ！

そして来年度学科隊長の麻衣ちゃんにバトンタッチ！

伝統と新しい作りの神輿

神輿隊長

3年 湯山 真仁

今年が浅草の宮本卯之助商店から始まりました。まずは、毎年恒例の浅草の本場の神輿を見て、後輩に少しでも神輿について知つてもらふと同時に今年はどうな感じに作るかを考えるのにも良い刺激になりました。そして、今年のテーマは「華」にしました。この「華」という言葉には神輿を華やかにすることと収穫祭のテーマである「農大の花ここに咲く」の花からとつてつけました。これは毎年似たような神輿が作られていて私的には感じだったので今年は畜産の神輿の伝統を入れつつ新しいデザインにしようと思つたのでこのテーマにしました。

8月に入りテストが終わつてからすぐに活動を始めました。今年3年生2人、2年生1人、全部で3人という例年よりも少ない人数で、他学科とは約半分というハンデを背負つていました。その点は3人で一丸となつて1人2人以上の仕事をしていきたいと思います。私意外女ということもあり夏休みの最初は工具の使い方に慣れてもらうことから始めました。2人ともほとんど工具を使つたことがないので初めは内心ヒヤヒヤしながら使うのを見てました。8月の後半になり、工具の使い方に慣れてきたあたりで少しでも個人のアイディアが浮かんでもらうように1人1人に個別のパーツを作ってもらいました。その効果もあつてなのか夏休みの終わりあたりから一つのパーツに対してたくさんの方が飛び交つてとても作業としては楽しくなつてきました。

今年も、不運にも天候にあまり恵まれず夏休みだけで台風が何回もきて作業が進まなかつたり、厚パレも初めに予定していた日は中止となつたりして予定通りにはなかなかいかず、本当に神

輿が完成するのか不安になる時もありましたが隊長である私が弱みを出してはいけないと思つたのでどんな時も場の雰囲気の良いくなるように盛り上げてました。10月に入り1年生にも手伝ってもらひ作業も大詰めに入り、3人とも寝る間も惜しんで作業をしました。そして収穫祭の当日にはやつと人に見せれるぐらいの神輿が完成しました。

今年が活動が始まる前からイレギュラーなことが起こりすぎて私がかつて引つ張つていくことができるか心配でしたが2人がとてもよく作業してくれたので今思うとそんな心配しなくてもよかった。厚木一般投票では見事優秀賞を取ることができました。3人で頑張つたかいがあつてよかつたと思ひました。人数というハンデに関係なく競えることを改めて思ひました。来年はきっと面白い神輿ができることを期待しています。順位とかは関係なく悔いの残らないように楽しみながら活動していつてほしいと思ひます。

第125回体育祭

体育祭委員長

3年 鈴木 飛鳥

結果報告

総合の部第二位

競技の部第一位

応援合戦の部第一位

今年度畜産学科は十月三十一日世田谷キャンパスで行われた東京農業大学体育祭にて頭書の成績を納めることができました。ご指導ご支援下さった先生方、六本部の皆様、保護者の皆様、OB・OGの皆様に深く、深く感謝致します。

昨年度の体育祭、引退式の際、背中にかかった委員長法被。鬼のように冷える初冬の夜には暖かいようで、重いようで。あの瞬間から早くも一年が経ちました。

実質、昨年度の体育祭終了後から始まった私たちのシーズンは長いようで短いようで、なんだか今でも体育祭が終わった実感が湧かなくて、最近になっても朝ふと目覚めて「やばい！男子パートあと8×2終わってない！」みたいな。会室にいけばまたマコ、やん、しほ、みらい、りゅういちろうがいるような。そんな気がしています。

某統一委員長は「先輩方との約束を果たせなかった」とか「準優勝という結果で終わりに申し訳ない」とか言うけれど、私からすれば準優勝ってとてもとても凄いことで、優勝旗返還も選手宣誓も、応援合戦終了後に沢山の方にお褒めの言葉を頂いたことも、多くの方に参加頂いて熱い熱い熱戦を繰り広げることが出来たことも、何度も何度も表彰台に乗ることが出来たことも、私たちの

恋するニワトリ

櫓裝飾委員長

3年 矢板 都

別にある朝目覚めたとき自分が毒虫になっっているわけでもなく、ひゅうんとウサギの穴に落ちたわけでもない。いつもの日常であることは変わりがないのだけれど、それでもピンクのニッカポッカの魔法か何かなのか、わたしの中でシーズン中の三カ月は十分に非日常であったと思う。

体育館下で見た朝焼けの軽い青、夜がはじまる重い紺色、カラスにレトルト中華丼の具を食べられ汚穢被害にあい、猫にお菓子を食べられたり、みんな湾岸がSUKIになっちゃったり；午前三時の郎郎郎はその後一日吐き気との戦いだっただけでも記憶に新しい。

縮めてお伝えさせていただいた通り、今年度の作品は第一にかわいい。「櫓」はかわいいか。そうでないかは重要なことだから舌が裂けるまで主張する。なぜならばきれいやかっこいい、もつと言えば優美であるとか荘厳であるとか。それも十分魅力的だがどれもこれも「かわいい」にはかなわないからだ。かわいいは承認であり正義であり文化である。追求しないでどうするんじやい。

それを含めて今年度はアパンギャルドも目玉を飛び出し、臍物を撒き散らすような物に仕上げたつもりである。しかし、それだけじゃあ通称ユーマアキーンなのたしは終わらない。テーマは京劇。その一つである『拾玉鑰』の演目で使用される髪飾りをデザインに取り入れた。この演目は素朴な恋の物語で、楚々とし可憐な我々にびったりだと自負している。それに加えた最大のユーマアポイント。なんてたってメインの動物が雄の採卵鶏。意味がわからない。でもめっちゃ面白。これみんな黙っておこう、一人はくそ笑んだ夏。しかしその後の製作は台風含めイレギュラーの連続でマジメに逃げ出したかった。よしもうすぐ完成だ！

代で初めて厚木三学科が総合順位を総取りしたことも、何もかもが凄いで。目標達成どころか遥かに目標を超えた結果を得ることができて、だからこそ今でも体育祭が終わったという実感が湧かないのだと思います。

東京農業大学の体育祭は長い歴史の中でルールやプログラムの改定など年々新しい形に生まれ変わっています。来年度は特に大きな変更点が出てくるのではないかな。新しいことに取り組むときは不安いっぱい、ついつい古いものに縋りたくなるものだけど、しほ、みらい、りゅういちろう、三人なら大丈夫。これから先何年も続いていくであろう東京農大の体育祭で、新しいものを作り出す年に、畜産学科の体育祭部門として携われること、誇りに思っ下さい。今年度畜産学科はものすごい成績を打ち出したけれど、過去に頼っちゃいけません。私たち六人の代はこれで本当におしまい。ちよつと自信が足りないけれど本当は誰よりも大人数をまとめる力のある、しほ。しっかりと見ようように見えてかなりぶっ飛んでいて周りにビリビリしたムードを作らせない、みらい。ふらふらしているけど本当は誰よりも周りを見ることができて色んな素敵なアイデア持っている、りゅういちろう。いっぱい悩んで苦んで頭おかしくなっちゃうくらい考えて、みんなにしかできない体育祭を作ってください。一年間楽しかったね。お疲れ様。ありがとう。

のタイミングにワープできたらなあ、と考えない日はなかった。そんなネガティブな思想を一通り制覇した所で吹っ切れ、毎日が楽しく、さながらのたうつハリガナムシのように生き生きといただろ。その結果、沢山の方々に手伝っていた金貼りも体育祭当日には太陽光でとんでもない熱を帯び、周囲の人々への目潰し効果は抜群であった。ふふん。

色々な見方はあるが我々が三カ月間かけて作ってきたものは流石に廃りが存在するわけではない。其の感情の、其の思想の、已むに已まれぬ表現の形作りである。それらは櫓として行う言わば闘争であるとも受けてとれる。そしてわたしは精一杯自身の趣向を表現し、戦えたと自負している。

唯一、今尚悔いが残っていることと言えば体育館下で幽霊を確認できなかったことだけである。

噂によると動物達が行列を成しているとかワンピースの美女が立っているとか：一度はお会いしたかった。来年度製作同様目撃情報、大いに期待しています。

そして酸いも甘いも噛み分けて、我々はカラーバリエーションガールズ兼畜産学科統一本部第67代目櫓・パネル裝飾部門を卒業します。68代目に伝えられた事として、これだけ好き勝手してもどうにかなるということ。終わりの実感が湧くのは個人差があると思うけれど、わたしは体育祭も終わり貴女が頑張っているところを見た時に自身の本懐を遂げたと、改めて感じる事ができました。

なので、来年度は貴女自身が形を成せなかった言葉や思想を、是非見る人の視線を釘付けにするようなモノに変えてください。

最後に、甚だ簡単ではございますが今年度櫓の製作又活動に当たりまして沢山の方々から御支援、御協力頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

ほなね。

笑顔な装飾(幸せな時間)

装飾委員長

3年 松本 奈々

ふじみを書く季節になりました。私は文章を書くのが苦手です。どうしようと思った時、研究棟アト、垂れ幕を作り始めた時からふじみを読み返しました。今までの装飾委員長の方々の文章に装飾部門の歴史、そして思っていることを活動出来ていること、そして誇りを感じました。また、いつの代でも畜友会が最高だと改めて感じました。歴代の委員長の文章を読みたくさん涙がこぼれ落ちました。装飾愛で心が満たされたところで、これから私たちの代の装飾部門の話を書こうと思います。

今年度も8月から作業が始まり、ミシンと漉く仲良しになり、朝早く起きて、手・足・顔・服をペンキみぬれにしたり、ロープ通しの時には何故かみんな全力でひたすらパドミントンをしたりしました。装飾部門3年生3人、2年生3人、みんな6人は本音が言うのも恥ずかしいですが漉く仲良しすぎて面白いです。6人である時に話が途絶えたことがなかったのを最近気づいて驚き笑いがこみ上げて来ました。本当に6人であるはずと笑っていて、時には笑いすぎてブルブルの上で寝転んで立てなくなってしまうほどで、笑すぎて顔が初めて筋肉痛になりました。

そんなゆかいな装飾みんなを紹介したいと思います。

まずは3年生！
☆芳賀ちゃん☆(芳賀航平)「早く帰りたいな。」と口癖がありますが、装飾1番の早起き、凄く力持ち、思いつくだけでよく笑っているなどたくさんあります。芳賀ちゃんの凄くところは私がやるべきことが何やるのだからかと考えていると直ぐに教えてくれて、芳賀ちゃんがいってくれたら今年も計画通りに出来ました。

☆まりちゃん☆(澤野満里奈)ゲーム大好き、常にゲームしています。ミシン直すプロ、下書きの動物書くのが上手い、突然笑い出すなどたくさんあります。まりちゃんはその言葉が出てこないときでも話が伝わるんです。本当に凄すぎます！私が悩んでいる時にいつも的確なアドバイスをくれてくれてありがとう。今年の2人にたくさん迷惑をかけてしまったけど、いつも助けてくれて本当にありがとう。一緒にいると安心感があり、2人がいてくれたから私が委員長として生懸命頑張りました。2人には感謝感謝です。本当にありがとう。

☆さとみちゃん☆(織田聡美)乳牛大好き、テンション高め、黒ふち上手い、1年生の時にお手伝いに来てくれたのにも関わらず、牛(おまつ)にくれてあげて飛ばされてしまった。(おまつ)事件。それでも装飾部門に入ってきたことと、色塗りの難しいところも生懸命やってくれてありがとう。青のラインとでも

家畜苑

家畜苑苑長

3年 大窪 誠聖

今年の家畜苑は当初十人で活動予定でしたがどんどん人数が減り、気がついたら七人で活動していました。3年生四人、2年生三人で活動していましたが当初と比べたら一人一人の仕事量や役割が増え、きつい中それでも付いてきてくれた家畜苑メンバーには感謝でいっぱいです。今年の家畜苑はスマートかつスムーズに活動したと思います。人数が減ったせいかみんな焦りを感じて計画よりも早く作業が進みました。やれば出来る奴らでよかったです。

活動は九月から始まりました。去年は牛引きを行うため早めに活動を開始していましたが、今年が厚木キャンパスにおらず牛引きができないため九月から活動を開始しました。牛引きは去年新しく試みた企画で今年できなくて非常に残念です。今年の家畜苑は例年通りひよこふれあい体験、バター作り、牛のブラッシング体験、〇×クイズをするため活動しました。また、〇×ゲームの景品である風船が今年は予算の都合上無理で、代わりにチェキで写真撮影を試みました。家畜苑は家畜を入れる小屋の組み立て、小屋の後ろに飾る風景画、動物たちの説明パネル、記念写真用のパネル、家畜苑の入り口になる門の作成を行います。それぞれメンバーは役割分担で作業を行い、神輿みたいに一つの物を完成させるのではないので一人一人の責任は大きかったと思います。がみんな一生懸命に取り組んでくれたおかげで無事全て完成させることができました。シーズン中はほんとにバリエーションがいっぱい返せばきりがなくなっていくくらい充実していました。しっかりとしないといけない三年はアホだし逆に二年がしつかりしいて、バラ

綺麗でした。

☆道前くん☆(道前遼太郎)基本シャージです。笑顔が可愛い、ロープ通しのプロ、1年生の時から装飾専門としてお手伝いに来てくれてありがとう。本当に昨年今も今年もロープ通しのプロは早かったです。もうロープ通しの神様です。☆どんちゃん☆(鈴木華子)おしゃべり、頑張り屋さん、下書きの文字書くのが上手い、1年生の時からお手伝いたくさん来てくれてありがとう。装飾を選んだのは先輩をみてと言われてとても嬉しかったです。来年は装飾委員長としてたくさん大変なことがあると思います。でも、3人なら大丈夫だと安心していきます。

2年生3人は本当に可愛い、いつも癒されてきました。1人1人の得意なところが違うから、3人で助け合いながら出来ると感じています。3人は漉く仲良しなので3人が作り上げる垂れ幕とても楽しんでいます。来年はOB・OGとして応援しています。

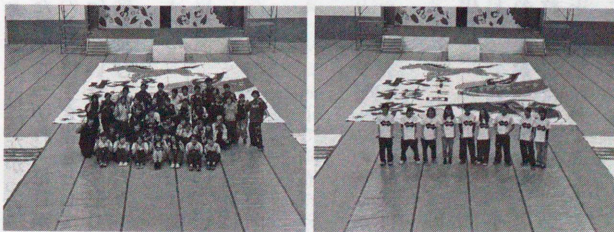
装飾部門は、いつも気づけばみんな6人集合していて、常に笑っていて、それが本当に毎回幸せな時間でした。

みんな大好き。6人最高！装飾最高！

そして、昨年度、装飾委員の美晴さんにはとても迷惑をかけてしまい、その度に漉く助けしてもらいました。私が心配性なので忙しい中たくさん話を聞いていただきました。美晴さんの顔を見るときはまた頑張ろうとしても元気をもらっています。本当にありがとう。

収穫祭週間前に垂れ幕を設置した時は我が子のように可愛い、茶煙の近くで何時間も見てとても安心しました。しかし設置してから1週間間は破れたり、落ちたりしないか漉く恐ろしくて目の下にクマがひどくなりました。収穫祭2日間天候に恵まれて無事に収穫祭を見届けられました。本当に安心して帰りました。そして、幸せな時間でした。

最後になりましたが、ご支援をいただいた先生方、各研究室の方々、相談を聞いていただいたOB・OGの方々、統委員長の鶴ヶ崎世結、世結への団結力が凄く、世話好きな3年生、これからまた畜友会の新しい色を作り上げていく2年生、お手伝いに来てくれた1年生、本当にありがとう。ありがとうございました。



スのとれた家畜苑で楽しかったです。

収穫当日は、大盛況で終わったのではないかと思います。ひよこふれあい体験、バター作り、牛のブラッシング体験、〇×クイズを通して、来場者の方から「楽しかった!」「動物かわい!」など言ってもらい、それまでの作業疲れが吹っ飛ばぐらゐの濃厚な2日間でした。これは家畜苑にしかわからない気持ちだと思えます。また、心配だった〇×ゲームの景品のチェキで撮影も喜んでもらえたと思います。今年の動物展示はミニブタ、牛、羊、鶏、に加えてダチョウの雛と亀を展示させて頂きました。至る所は多々ありましたが先輩方、先生方には今年も良かったと言ってもらって頂き頑張った良かったなと思えました。家畜苑のテーマである「多くの方に家畜のことを知ってもらおう」は色々な形で達成できたと思います。

今年も家畜衛生学研究室、畜産物利用学研究室、家畜繁殖学研究室、畜産マネジメント研究室、家畜飼養学研究室、富士農場、塚田泰佑、他にも多くの方々のご支援があり、第四十七回家畜苑をすることができました。家畜苑の成功は皆様のご協力のおかげであります。ありがとうございました。

最後になりましたが、二年間を通じて家畜苑はほんと忙しい部門だとつくづく思います。ですが収穫祭当日は半端じゃないくらい充実感を味わえます。来年は大平祐輔がいる家畜苑が今年の家畜苑を超えてくれることでしょうか。今年一つ心残りであるトラクターの展示、ロールサイロの展示もきつと叶えてくれるでしょう。来年度の家畜苑の活躍を心から期待しています。今後とも家畜苑をよろしく願います。ありがとうございました。

編集後記

今年も無事、第53号目となる『ふじみの』を発刊することができました。こうして皆様にご覧頂けていることを心より嬉しく思います。

第17回収穫祭は、来場者数2万1666人と多くの方々を迎え、恒例の野菜無料配布や家畜苑も大盛況に終わりました。開催者ともに来場者の皆が充実できるものだったのではないのでしょうか。

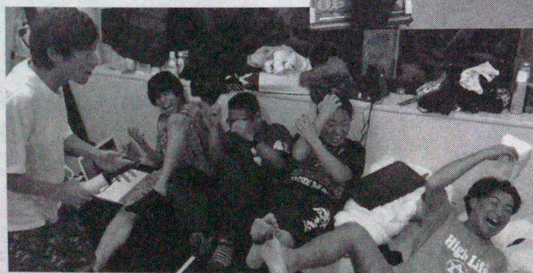
第125回体育祭では演舞1位かつ、総合の部で準優勝という昨年の総合優勝に引き続き輝かしい結果を残し、更には、厚木3学科で表彰台を独占するという農大創立125周年と記念すべき年にふさわしい記録を作りました。今後の皆様の益々のご活躍を祈っています。

最後になりましたが、本誌を発刊するにあたり、お忙しい中ご寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申し上げます。

編集委員長 3年 外内 万夏



統一本部



特別企画

平成29年3月20日 発行

“ふじみの”第53号

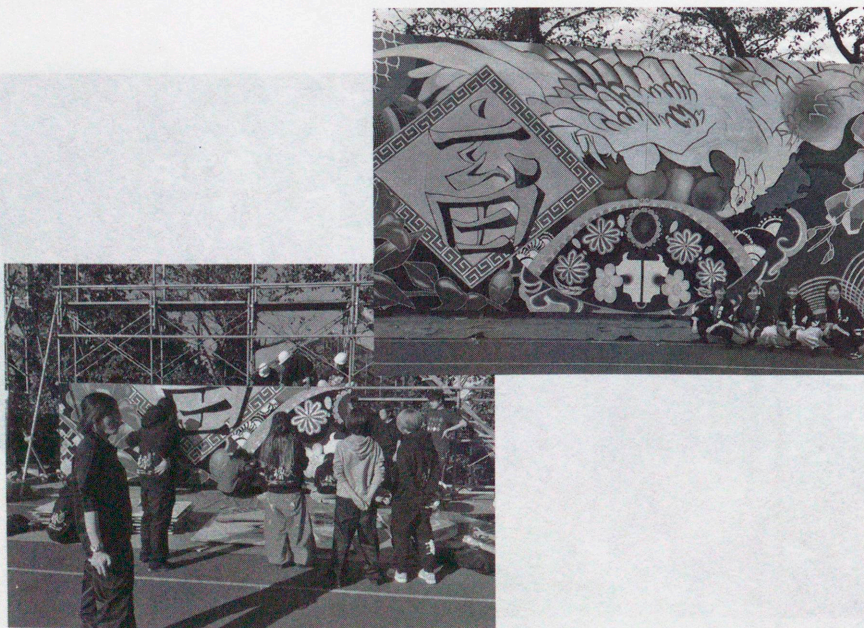
ふじみの執行委員 外内 万夏
小川 凌汰

神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部畜産学科畜友会
電話 046(270)6220(総務課)

印刷所 東京都荒川区西尾久7-12-16
創文印刷工業株式会社
電話 03(3893)0111



体育祭



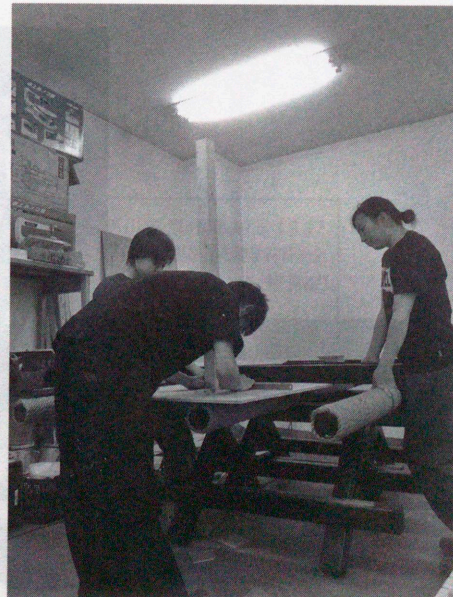
櫓

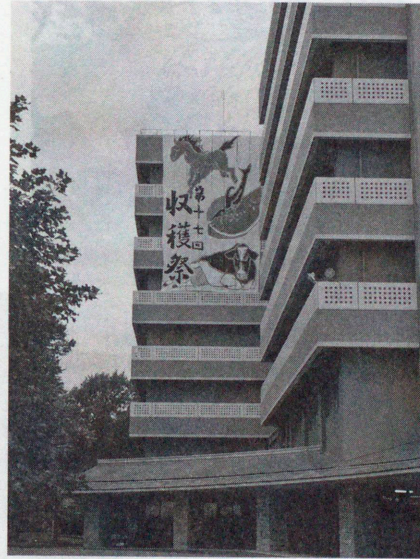


宣伝隊

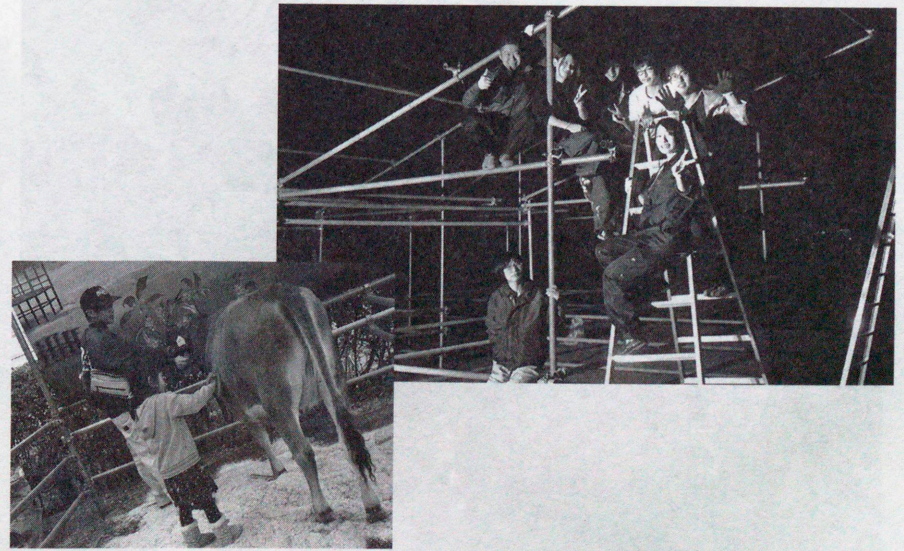


神輿





研究棟アート



家畜苑

